

知と美の空間で

司書資格取得を目指すあなたへ



聖徳大学 | 司書・司書補講習

講義中スマホ等利用自由 音出し禁止

図書館司書(補)講習 「生涯学習概論」

2025/07/24・25・26
9:00～17:55

図書館司書講習
「生涯学習概論」

2025/08/4・5
9:00～16:15

図書館司書補講習
「生涯学習概論」

- 若者文化研究所 西村美東士
- <http://mito3.jp>
- 検索語 若者文化研究

ICT活用と双方向性の試み

- ご意見、ご質問は「BBS」を通してお寄せください。
- → <http://mito3.jp/2025sisyogairon/>
- 受講者専用ページは
- ログイン S*****
- パス S***** S*****

生涯学習とは

生涯学習とは、個人の充実とともに、地域での人々の学び合い、支え合いを進めるものである。それは現代社会が強く求めている価値である。このことは、個人（仲間内）完結型の価値観を、社会開放型の価値観に転換させることにつながる。逆にいえば、社会開放型への転換が、個人化で行き詰まった若者を救うことになると考える。

生涯学習とは 佐野市生涯学習推進計画の事例

【生涯学習とは】

生涯学習とは、人々が、生涯のいつでも、どこでも、自由に行う学習活動のことで、学校教育や、公民館における講座等の社会教育などの学習機会に限らず、自分から進んで行う学習やスポーツ、文化芸術活動、趣味、ボランティア活動などにおけるさまざまな学習活動のことをいいます。生涯学習は、自己の充実・啓発や生活の向上等のため、必要に応じて、各人が自発的意思に基づき、自己に適した手段・方法により行われており、その内容は文化芸術活動やスポーツ活動、レクリエーション活動、ボランティア活動から、職業や資格に関する学習、趣味等の習い事など、多岐にわたります。

さらに、佐野市においては、生涯学習のもう一つの側面である自己の充実とともに、人々が地域で学びあい支えあって、佐野市をよりよいまちにしようとするのが重要であると考えています。そのため、『私』の楽習※から始まる参画と協働」というキャッチフレーズのもとに「第2次佐野市生涯学習推進基本構想・前期基本計画」を策定、推進してきました。「第2次佐野市生涯学習推進中期基本計画」においても、この側面を重要視しています。

※「楽しく学習する」という意味の造語です。「楽」は「ラク」という意味ではなく、「本当の楽しさ」という意味を持っています。生涯学習は個人の自発的意思による自由な活動であり、これを楽しく行うことを佐野市では「楽習」と表現しています。

目標

1. 生涯学習の重要性について、自分の言葉で説明できる。
2. 人々の生涯学習ニーズの多様化に対応する司書の役割について、自分の言葉で説明できる。
3. 生涯学習まちづくり推進の内容と方法を知っている。

◆資格取得基準

試験の内容と方法

課題シートの作成＝講義中に作成して各自保管。

最終テスト

暗記不要。課題シートを参考にする。

答案とともに課題シートを提出する。

資料等、持ち込み自由。

スマホは、最終試験では使用禁止

課題シートや答案用紙は返却しません。

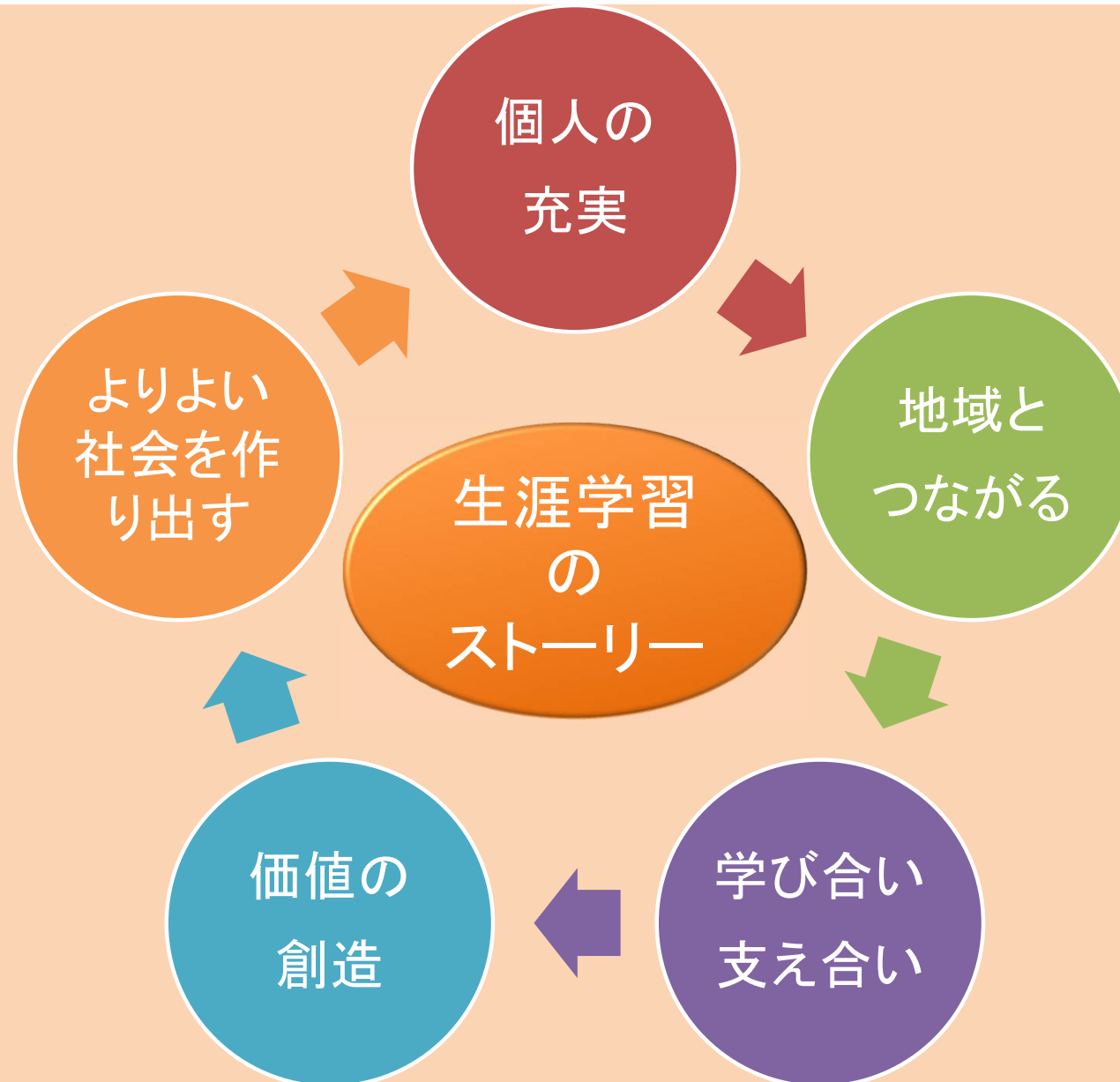
自分の答案等のコピー、撮影は自由。

◆「生涯学習概論」のミッションー内容

個人の自主性・主体性尊重の視点からとらえてみよう。

- (1)生涯学習・生涯教育論の展開と学習の実際
- (2)生涯学習社会における家庭教育・学校教育・社会教育の役割と連携
- (3)生涯学習振興施策の立案と推進
- (4)教育の原理とわが国における社会教育の意義・発展・特質
- (5)社会教育行政の意義・役割と一般行政との連携
- (6)自治体の行財政制度と教育関連法規
- (7)社会教育の内容・方法・形態(学習情報提供と学習相談、評価を含む)
- (8)学習への支援と学習成果の評価と活用
- (9)社会教育施設・生涯学習関連施設の管理・運営と連携
- (10)社会教育指導者の役割

講義全体のもう一つのストーリー



人と出会うことについて

- チエちゃんの話
- 西村「チエちゃんの話－自己決定の人生と生涯学習」徳島学遊塾『ぶどうの木』1998年
<http://mito3.jp/seika/1640.pdf>

見知らぬ他者と出会う

- ネットとは異なるワークショップの効果
「見知らぬ人とも出会いたくなる」

- <http://mito3.jp/201710syakyo/2000.pdf>

2日間の「生涯学習概論」の授業で、学生がどのように自己や他者に対する気づきを得たのか、その変容の過程を解明することによって、学生の自己決定能力を高める授業の構成要素とその効果を明らかにした。第1に、ワークショップ型授業によって、即自から対自へ、対自から對他者へと学生の気づきが促され、對他者から再び対自や即自のより深い気づきへと循環する過程が明らかになった。第2は、学生の自己決定能力の到達段階の把握に基づく戦略的な指導内容と授業構成の必要性が明らかになった。

ワークショップの場合 役割提供、表現支援、受容、課題解決、揺さぶり

2000年11月ワークショップ型授業の構成要素とその効果－学生の自己決定能力を高める授業方法、
『大学教育学会誌』22巻2号、pp.194-202

今回の授業における指導者の行為は、課題提示(問いかけ)、紹介(読み上げ)、回答(レスポンス)、指示(ワークの進め方)が頻繁に行なわれた。そのことによって、役割提供機能(ワーク)、表現支援機能(文章、話し合い、発表)、受容機能(学生の表現への評価)、課題解決機能(気づきの促進)、揺さぶり機能(固定概念の打破)を発揮していたと推察できる。

異質の他者との出会い

- トランジション(スムーズな移行)＝クラブ・サークル活動やアルバイトによる「豊かな人間関係」については、「良好な友達づきあい」以上の質が求められ、異質な他者からの影響が大きい。なお、「勉学第一」とした者は良い結果にならなかった。
- 中原淳, 溝上慎一「活躍する組織人の探究: 大学から企業へのトランジション」東京大学出版会、発売日: 2014/3/28

出会いを体験する

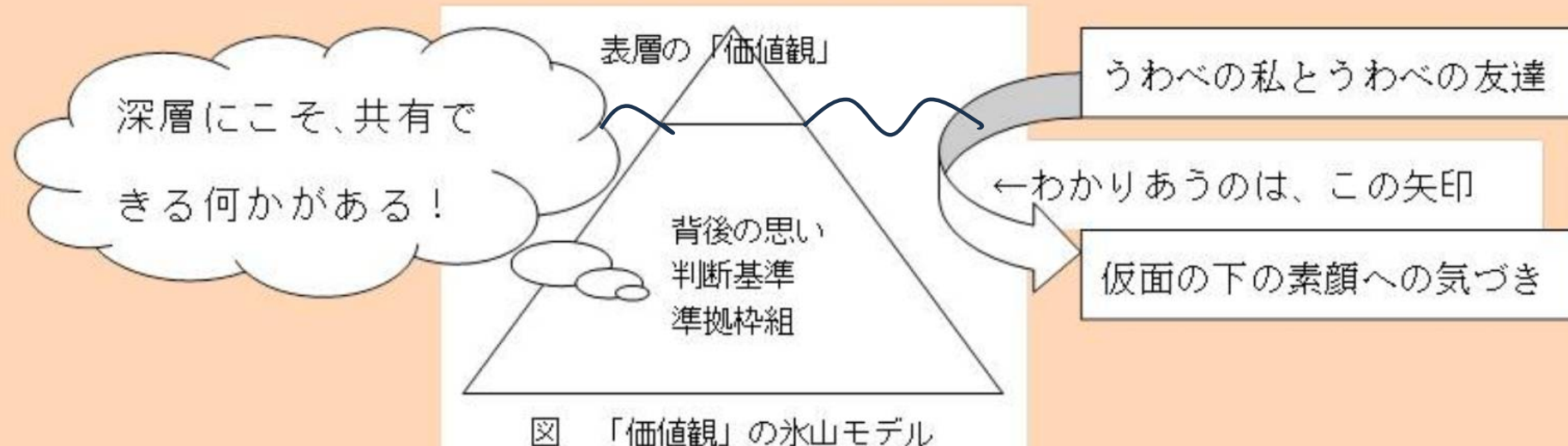
[第一印象 ゲーム]

水面下の理由や判断基準を知ることによって自他理解を深める

[価値観 ゲーム]

異なる価値観をもつ他者と「共存」を超えて「共有」するための方法を身につける

出会いの冰山モデル



講師紹介

資料

日本青年館『社会教育』2024年7月号

西村美東士「私の青少年教育リカレントー社会教育の魅力につねに立ち返るー」

日本青年館『社会教育』2025年8月号

坂井知志・西村美東士対談「未来展望:これからの社会教育に望むこと」

前掲資料の関連リンク 1

リカレント教育については・・・西村「リカレント教育」弘文堂『福祉社会事典』1999年 <http://mito3.jp/seika/1800.pdf>

広域施設ワーカーの課題については・・・西村「青年の家についてみんなで考えてみよう」東京都青年団体連絡協議会『大会資料』1977年
<http://mito3.jp/seika/0010.pdf>

戦後青少年教育については・・・西村「青少年教育論教材」 <http://mito3.jp/seisyuu>

寺中構想については・・・西村「癒しの公民館―新しき伝統」本誌1999年3月 <http://mito3.jp/seika/3920.pdf>

青年教育のネオトラについては・・・西村「猫プーはどうしてネオ・トラなのか」本誌1994年 <http://mito3.jp/seika/1080.pdf>

今日の発展形の課題については・・・西村「全国自治体のユニークな事業―国立市公民館視察報告」聖徳大学『松戸市社会教育作成におけるスモールコレクション』2015年 <http://mito3.jp/seika/3350.txt>

駅のプラットフォームのようなもの(第五期豊島区生涯学習推進協議会『『つどう、つながる、つなげる、つくりだす』豊島区生涯学習センター機能の実現に向けての意見書』2016年 http://mito3.jp/toshima_ikensyo.pdf

【補注】まちづくりに向けた青年団と行政とのコラボについて、私は、「個人の多様性を認める数少ない場」としての青年団の意義と今日の可能性を主張した(西村「違いを認め育む」『日本青年団新聞』2021年 http://mito3.jp/seinendan_collabo2021.pdf

【補注】私は、学習集団を支援する施策と方法について、これまでのネットワーク重視から同心円集団重視への転換を説いた。これは、ネットワーク重視における個人の自発性尊重を継承しつつも、「個人の自発的支持に基づく人格的権威」に依拠するものである(西村「学習集団形成のプロセスと支援」国立教育政策研究所社会教育実践研究センター「社会教育主事講習資料」2010年 <http://mito3.jp/20100201syuudan.pdf>

「没入している生き様」のモデルを若者は求めている(西村「癒しのサンマと若き旅人たち―地域若者文化のはぐくみ方」青少年問題研究会(総務庁青少年対策本部編集協力)『青少年問題』 <http://mito3.jp/seika/1660.pdf>

「ほんものの文化にふれる、ゼロと一の違い」を重視して、受講者の社会教育職員に「特別文化講座」を提供していた(西村「感性にせまる、核心にせまる」本誌1985年6月 <http://mito3.jp/seika/0240.pdf>

大学教員には「研究も教育も」求められる。「どちらか一方だけ素晴らしい」という人はあまりいない。「本物」の大学教員は「研究も教育も本物」である。それは、学生に「知的水平空間」の魅力を伝えることにもなる(西村書評「早田幸政『大学の質保証とは何か』」日本教育新聞社『週刊教育資料』2016年 <http://mito3.jp/seika/3480.html>

ある落語家が、大学で講師をやっていて、「毎年、新しい若者が来るのでありがたい」と言っていた。ワーカーも「新しい若者」と出会うことができる。それは、「新しい時代」との出会いであり、その意味から、リカレント「教育」ではなく、出会いのリカレントとすることができよう(桂文珍『『非常識』講師が学んだ現代若者考』産経ニュース

https://www.sankei.com/article/20220216-7TNV5RQR3JMWFAATNBPT35U7RVM/?outputType=theme_portrait

今後のOJTのあり方については・・・西村書評「川島高之『いつまでも会社があると思うなよ！』PHP研究所、2015年」 <http://mito3.jp/syohyou/html/3460.html>

全国規模で青少年教育の実践報告が収集、掲載されていた「青少年問題文献集」が2002年度までで中止になったことは残念だ。青少年の社会参画が叫ばれる今日こそ、このような実践の蓄積と交流が必要と考える(西村『わが国の青少年教育及び青少年問題』2020年。 <https://www.ihcs.otsuma.ac.jp/ebook/book.php?id=70>

前掲資料の関連リンク 2

私は、第1の社会化支援(社会の一員としての充実)、第2の個人化支援(個人としての充実)とともに、「第3の支援」を提唱している(西村「若者の居場所」に求められる第3の支援」日本精神衛生学会発表2020年 <http://mito3.jp/seisin36.html>

西村「ニューメディアをひっかきまわす若い母親たち」本誌1997年12月 <http://mito3.jp/seika/1530.pdf>

私は、大学教育において、なんでも自由に書いて、次週に教師が紹介し、コメントする「出席ペーパーシステム」を導入して、学生参加型双方向授業を行っていたが、BBS(電子掲示板システム)を導入して、交流を活性化させた。現在は、グーグルドライブなどによって、さらに共同作成ワークなどにも発展させている。これらがすべて無料でできるのだから、ユースワークに使わない手はあるまい(西村美東士ICTシステム <http://mito3.jp/ccs>

また、「マインドマップ」も有力なツールである。指導者が、若者の望むテーマで本人にインタビューし、これをマップに書き込んで構造化してみせる。そのマップを本人が説明すれば、彼は自分の考えを構造的に理解し、理論的に説明したことになる(西村「若者との協働による価値創造の新しい方向」本誌、2017年 <http://mito3.jp/seika/3690.pdf>

私はボトムアップの有力なツールとして、クドバス(CUDBAS)に注目している。凸版印刷では、トップが滝野工場のクドバスの成果に注目し、その「社内水平展開」を指示した。ローカルから発したクドバスが、全体に波及して総合化されるという動きについて、私は「組織の中で、ボトムアップとトップダウンがスムーズに(気持ちよく)往復し合ったからこそのこと」と評価した(西村「職業能力の見える化がもたらすもの」、齋藤ゆか他『学びの見える化の理論と実際』勁草書房、2023年 <https://www.keisoshobo.co.jp/book/b622007.html>

本書の表紙帯には「見逃せないのが、『気の進まない作業』と『どんなにたいへんであっても苦労とは感じない作業』があるとしていることだ」と書かれている。『気の進まない作業』とはボトムアップの伴わないトップダウンの横行によるものといえよう。クドバスでは、自己内対話によって書き出した能力カードによって、社員一人一人が自分を活かし、組織の中で個を発揮することにつながった。ワーカーと彼が所属する組織との関係についても、このようにして、ワーカー個人の自己発揮と、組織への参画を実現するものであると私は考える(西村「職業能力の見える化がもたらすものは何か」、職業教育開発協会「CUDBAS研究大会」2023年 <http://vedac.or.jp/kenkyuu.html>

組織の中で働くことは、楽しいことばかりではない。しかし、組織への「恨み辛み」だけで生きていくことは、個人としては不幸なことだ。個人は組織の中で充実するということも、もう一方の事実である。だとしたら、ワーカーは、「恨みの誤解より楽しい誤解」を大切にしていきたい。

私は学習相談を「個人(または援助者)の求めに応じ、学習環境等の客観的条件や、精神的・身体的な問題等の主体的条件などの、その個人特有のそれぞれの条件にもとづいて情報提供、助言、対話等を行うことにより、学習情報の収集・選択や学習の意欲・能力の獲得などを支援する教育(学習援助)サービスである」とした(西村『こ・こ・ろ生涯学習』学文社、1993年 <http://mito3.jp/seika/0860.txt>

まさにワーカーの役割と言えよう。そこでは、相談の中で、「相談員も相談者とともに自ら主体性をはぐむ」ということが大切だと書いた。このように高齢であっても「現在進行形」という構えが必要である。

高齢指導者はどのように活用すれば良いのか(私も求職中の身である)。ある大学では、名誉教授に大人数講義ではなく、1年生の少人数ゼミを担当させ、学科導入教育を行なっている。本稿で言う「個人に合わせた引き出しを示す」というワーカーの姿と共通する考え方に基いているものと思われる。

そのためには、事務室ではなく、コンツェルジュのようにロビーのデスクに定期的に行き、総合的なワンストップ相談を行なうのが良いと思う。事務室で「多忙の事務を請け負う便利な事務補助」ととらえてはいけな。若者同士の相互関与を深めるというユースワークの特性から言って、場所は事務室でも、相談室でもなく、ほかの人も見守ったり助言したりできるような環境が良いのではない。デスクには2方向のマルチディスプレイを置いて、相談者本人の言葉を「マインドマップ」に書き込んで構造化してみせると良いだろう。このことによって、「ワーカーをやりたい」というわれわれの志を実現したい。

むさしのインフォメーションサービス



1982/7/31 むさしのインフォメーションサービス—今までにわかったこと、わからないこと

①さまざまな分野の人から横断的に学ぶこと、②情報提供の意義と課題、③情報整理の方法と工夫について、重要性が明らかになった。そこで、本青年の家では、「むさしのインフォメーションサービス」を意識的に開始した。そこでは、これまでの講師から学んだことを生かし、「ナマ」の「今日的」な情報に重きを置きたいと考えている。

東京都武蔵野青年の家所報
『しいのみ』31号

<http://mito3.jp/seika/0180.pdf>

青少年問題に関する文献データベース

<http://mito3.jp/ydb/>

文献検索システム

■データ全体から検索[ここをクリック](#)

青少年問題に関する文献データベースについて
Database of Documents on the Youth Issues (DDYI)

研究代表者 聖徳大学（前徳島大学大学開放実践センター）教授 西村美東士

このデータベースは、今日の青少年問題の動向とその対応との関連を、関連する文献の網羅的調査やキーワード分析などの実証的検討を通して究明することを目的としています。

青少年関連行政の職員や団体関係者、その他広く研究者、関係者の皆様のご利用、及び、ご著書データのアップロード等のご協力をお待ちしております。

なお、政治・宗教・営利に関わるデータなどについては当方の判断で掲載しないこともありますのでご了承ください。

このデータベースは日本学術振興会の平成14、15、16年度科学研究費補助金（研究成果公開促進費）の交付をうけて作成されました。

[より詳しい説明](#)

[解題執筆者紹介・青少年問題ドキュメンテーション研究会委員名簿](#)

大学教授法入門

—大学教育の原理と方法



学習とは、究極的には、学習者個人が学習しようとしてこそ成立しうるものであり、教育はその営みを促進することができるからこそ存在しているはずだ。だとすれば、大学が社会教育から得るものは大きい。なぜなら、社会教育は、学習者の主体性を尊重しながら、その主体性が発揮されるようどう仕掛け、どう援助するかについて、真正面から取り組んできたからである。ママさんコーラスという支持的風土の集団づくりとその中での相互学習の成果なども、その一つである。

実際、ロンドン大学では、小集団討議法やグループワークなどの教授法を大学の教員を対象にしてトレーニングしている（「大学教授法入門」玉川大学出版部）。教員は立派な研究者であるとともに有能な教育者でなければならないからである。

1991/11 生涯学習と大学を考える、全日本社会教育連合会『社会教育』46巻11号、pp.28-29

<http://mito3.jp/seika/0640.pdf>

狛プー「講師のいない料理教室」

筆者は、1992年の立上げから現在に至るまで、前出「狛プー」(狛江市中央公民館青年教室)に関わってきた。そこでは、「職業や学業があっても、プータローの自由な精神を」と呼びかけ、参加、参画、不参加の自己決定を保証したうえで(「1年に1回来ればメンバーだ」)、「面白い仲間と出会おう」と提唱した【狛プー&癒しの生涯学習】。

ただし、その頃にはすでに、過去の青年教育における「若者の集い」などの達成能力目標が設定されていない青年事業には若者が集まらなくなっており、メンバーと相談して「講師のいない料理教室」、「紙芝居教室」などのスキル習得型月替りプログラムを展開した。

それにもかかわらず、若者が実際にそこで獲得した一番の能力は、「他者と出会う能力」といえる。筆者としては、「居場所における自然な対話」を想定していたが、それよりも、レシピを担当したメンバーの一生懸命な気持ち、紙芝居講師のおじいちゃんの指導をせずに自分の出番のための準備をする没入度、メンバーの紙芝居に入れるアドリブのセンス、そういうことへの気づきの体験が、異質と交流する態度を育てていった。そういう意味では、「無目的な居場所論」を超える「目的的な青年教育」の意義が本当はあったのだと感じる。その本質的目的とは何なのか。

■2015年10月号『社会教育』青年教育研究30年から見えてくるもの—一個人化を育む社会化支援教育の今日的課題

<http://mito3.jp/syohyou/mitoron/3440.html>



MICROSOFT COPIROT に聞いてみた 社会化と個人化の一体的支援を主張している人は

「社会化と個人化の一体的支援」を主張している代表的な研究者としては、西村美東士(にしむら みとし)氏が挙げられます。

西村氏は、以下のような視点から社会化と個人化の統合的支援の必要性を説いています：

社会化を「社会の中でより充実して生きるための能力(知識・技能・態度)の獲得過程」と定義。

個人化を「個人としてより充実して生きるための能力の獲得過程」として位置づけ、両者を対立ではなく連続的・相補的なものとして捉える。

若者のキャリア教育や青年教育において、自己との対話・他者との対話・社会との関わりを循環的に行うことが、個人の成長と社会形成者としての育成に不可欠であると主張。

教育政策や支援の現場では、社会からの要請だけでなく、個人の内面の深まりや癒し、自己内対話を重視する必要があると提言しています。

このように、西村氏は「社会化と個人化の両立」を教育の根幹と捉え、特にキャリア教育や青年教育の文脈でその実践的な支援方法を提案しています。

学校教育の課題

- グーグルドキュメント活用事例

<https://docs.google.com/spreadsheets/tLQsMIl93shuIYhCbPjS8BGG3Z6wLU-c/edit?usp=sharing>



[H](#)
[M](#)

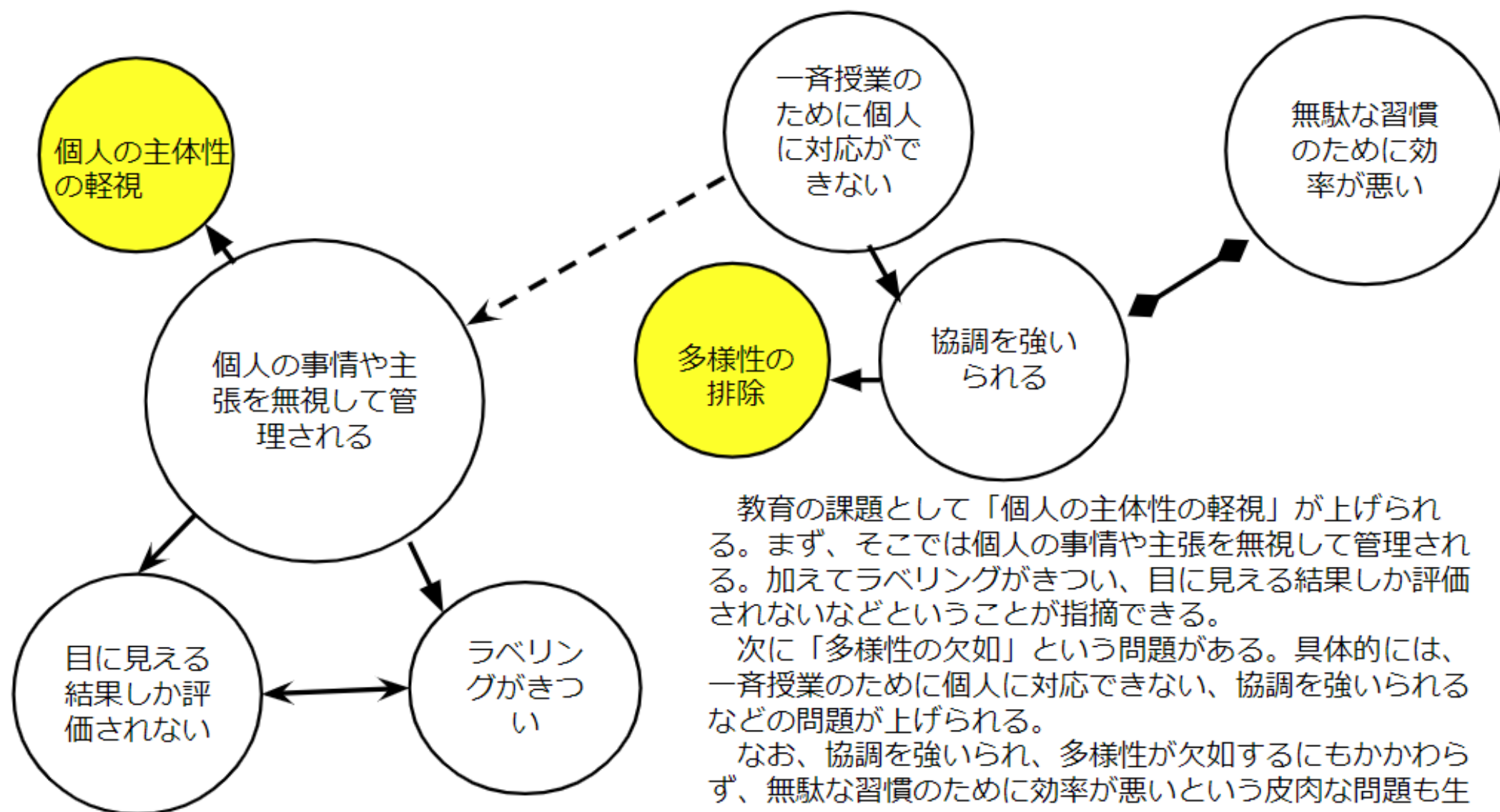
- グーグルスライド活用事例

<https://docs.google.com/presentation/6WSzqKy22qGrIRGvBD0iDAIBpmd8Nes/edit?usp=sharing>



[o](#)
[l](#)

教育の課題



教育の課題として「個人の主体性の軽視」が上げられる。まず、そこでは個人の事情や主張を無視して管理される。加えてラベリングがきつい、目に見える結果しか評価されないなどということが指摘できる。

次に「多様性の欠如」という問題がある。具体的には、一斉授業のために個人に対応できない、協調を強いられるなどの問題が上げられる。

なお、協調を強いられ、多様性が欠如するにもかかわらず、無駄な習慣のために効率が悪いという皮肉な問題も生じている。

生涯学習時代における 学校教育の課題を考える

- 参考動画資料

<https://www.youtube.com/watch?v=BzVSGqWQjiA>

社会に開かれた教育課程の実現について
文部科学省 10分

https://www.youtube.com/watch?v=8RKzKGzB_I

名物校長と考える学校改革「トップダウンじゃないことが一番大事」 19分

イエナプランという新しい教育

閉鎖的な思考に向けた教育から
包括的な思考に向けた養育へ、学校現実の非人間性と非民主制から
人間化と民主化へ、対話なき教室から対話へ、機械的教育から教育の人類学化へ、非真正（偽物）から本物へ、不自由から自由へ、批判的思考をしないようにする教育から批判的思考に向けた養育へ、非創造性から創造性へという教育の転換を実現しようと主張する。

保護者については、子どもと同様に、対話・遊び・仕事・催しを通して、学校参加が促されると言う。本書の言を借りれば、学校が、地域の人々にとっての「生と学びの共同体」になることこそ、学社融合の今後の姿なのだろうと評者は考える。

ブック

本書は、グローバル時代において、シチズンシップ（市民的態度）を学習させることの重要性を説く。「主体的・対話的で深い学び」については、子どもたちの活動の必要に応じて教室内や学校内を自由に主体的に動くことを保障するとともに、静かに一人で学ぶための場所や時間を意図的に用意する。このような動きと選択の自由が、責任意識や自治につながり、学びのオーナージップ（当事者意識）を生むことを目指している。

また、学校を「ありのままの社会の姿を映し出す鏡」として、社会のあらゆる階層の人々が集まる社会にしようとする。そのため、学校を、子どもを中心として、子どもたちの育みに関わっている大人たちとともに構成される「生と学びの共同体」として、未来の理想的な社会を先

本書は、グローバル時代において、シチズンシップ（市民的態度）を学習させることの重要性を説く。「主体的・対話的で深い学び」については、子どもたちの活動の必要に応じて教室内や学校内を自由に主体的に動くことを保障するとともに、静かに一人で学ぶための場所や時間を意図的に用意する。このような動きと選択の自由が、責任意識や自治につながり、学びのオーナージップ（当事者意識）を生むことを目指している。

今こそ日本の学校に！
イエナプラン実践ガイドブック

リヒテルズ直子 著
2420円 教育開発研究所
03-3815-7041

取りし実現しようとする。他方、健全であるべき育ちが、むやみに外部からの影響にさらされることのないよう、学校の「独立」を重視する。

このようにして、閉鎖的な思考に向けた教育から包括的な思考に向けた養育へ、学校現実の非人間性と非民主制から人間化と民主化へ、対話なき教室から対話へ、機械的教育から教育の人類学化へ、非真正から真正（ホンモノ）へ、不自由から自由へ、批判的思考をしないようにする教育から批判的思考に向けた養育へ、非創造性から創造性へという教育の転換を実現するよう訴える。

保護者については、子どもと同様に、対話・遊び・仕事・催しを通して、学校参加が促されると言う。本書の言を借りれば、学校が、地域の人々も含めた「生と学びの共同体」になることこそ、学社融合の今後の姿なのだろうと評者は考える。
（前聖徳大学教授・西村美東士）

リヒテルズ直子『今こそ日本の学校に！ イエナプラン
実践ガイドブック』教育開発研究所2019/8/30

<http://mito3.jp/syohyou/html/3980.html>

イエナプランという新しい教育

学校教育の革新 イエナプラン

日本イエナプラン教育協会ホームページ

<http://www.japanjenaplan.org/jenaplan>

検索語

イエナプラン

しなのイエナプランスクール・大日向小学校紹介

現役小学校教諭が伝えるオランダ・イエナプラン教育

麴町小学校の非常識な教え

しつけについては、次のように言う。叱る基準・しつけの優先順位を決めていけば、叱る頻度が減り、大人も子どもも不要なストレスを抱えなくてすむ。子どもとの付き合い方もかわる。さらに「本当にダメなこと」がはっきりと子どもに伝わるようになるので、子育てが楽になる。言わなくてもいいことはできるだけ言わない心がけが重要である。

著者は、「ルールを守らせることに必死な大人」に警告を発する。土曜日に重い勉強道具でも自宅勉強のために全部持ち帰るよう指導し、子どもが共有部に隠すようになると教員が必死に探し出す。著者は「そのあまりのくだらなさにあきれてしまった」と言う。学校だけで通用させている「常識」が、社会的には「あまりにくだらないこと」である危険性には十分注意したいものだと言評者も考える。



工藤 勇一 (著)
麴町中学校の型破り校長 非常識な教え
(SB新書)(2019/9/6)
発売日： 2019/9/6

<http://mito3.jp/syohyou/html/4000.html>

麴町小学校の非常識な教え

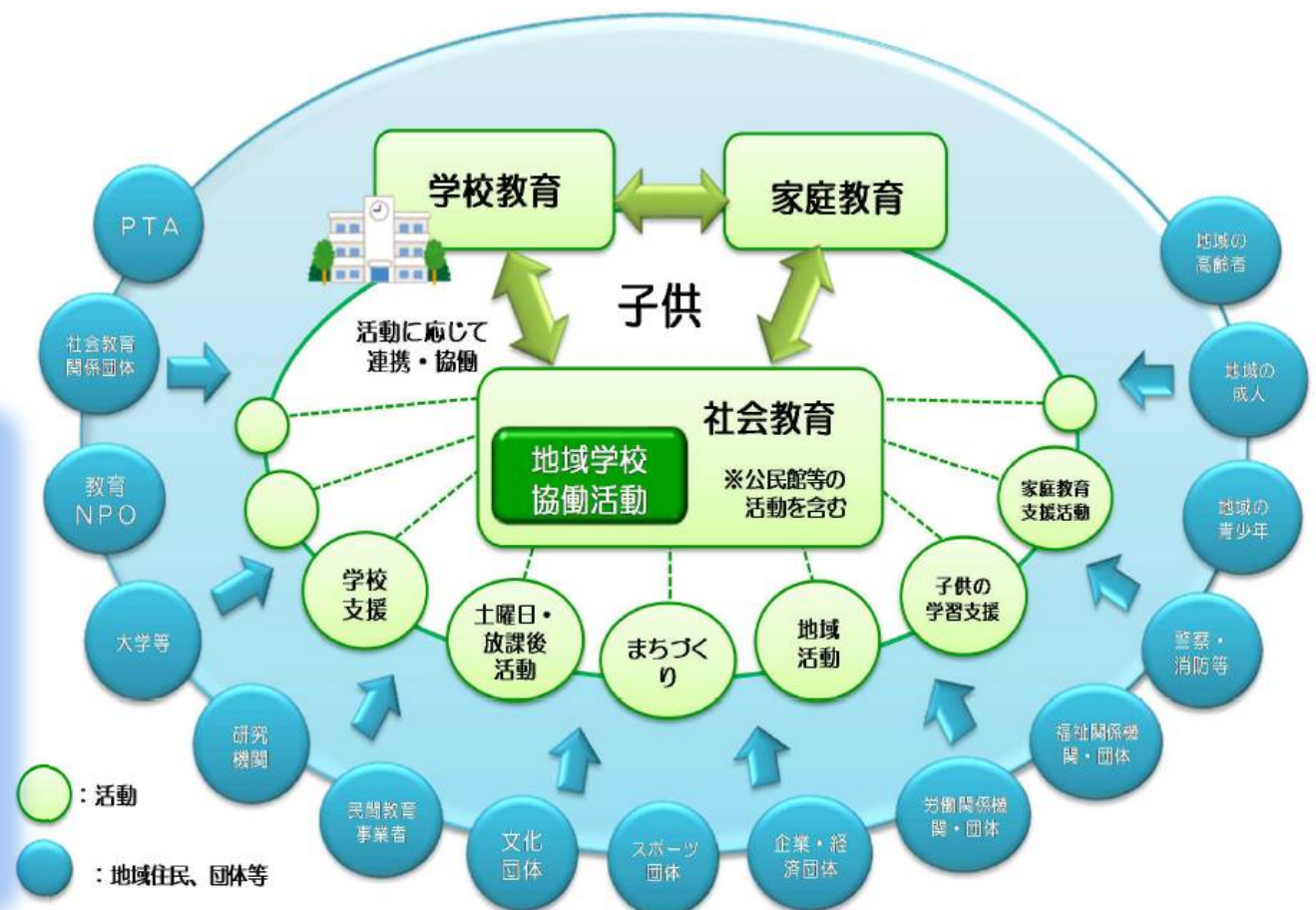


検索語 工藤勇一

地域学校協働活動

- ・次代を担う子供たちに対して、どのような資質を育むのかという目標を共有し、地域社会と学校が協働。
- ・従来の地縁団体だけではない、新しいつながりによる地域の教育力の向上・充実は、地域課題解決に向けた連携・協働につながり、持続可能な地域社会の源となります。
(地域学校協働活動は、2017年3月の社会教育法の改正により、法律に位置付けられました。)

課題：
生涯学習の観点から
見た学校教育、青少年教育(学校外教育)
の課題は何か



学び合いと支え合い

◆他者と出会う意味を考える

大学授業「社会教育演習」における「第一印象ゲーム」の効果について考える

第一印象ゲーム振り返り等 14分

学習か勉強か



社会教育関係者の間には、「勉強」という言葉は「つとめしいる」だから強制的な意味あいが強いと決めつけ、それに比して「学習」という言葉は即主体的行為であるから好ましいとする議論がある。これについて触れておきたい。

「学習」の「学」はすでに述べたように「臼」(両方の手)で知識を授けられることであり、「まねぶ」(まねをする)ことでもある。「習」の「羽」と「白」は「ひな鳥がくりかえしはばたいて飛ぶ動作を身につける意」であるから、「ならう、なれる」ことである。たしかに、「学習者側からの表現」と言うことはできるが、与えられた「教育目標」に対しては無批判的に受け入れることを前提とした言葉であると言えなくもない。「学習会」などという、無意識のうちにどうしてもそういうニュアンスで感じとられてしまうのではないか。

これに対して、「勉強」という言葉については、「勉強会ブーム」やパソコン通信のアーティクル(通信記事内容)にしばしば見かける「私も勉強しておきます」などの表現に、新しい意味を見いだすことができる。「勉強」の「勉」は、「力」(りきむこと)と「免」(女がしゃがんで出産するさまの象形)である。「無理をおしてはげむ」ことである。「強」も「無理をおす」という意味である。その語感に軽やかな楽しさがないのは否めないが、他者からの強制を必然的にとまなうものという意味は含まれていない。ここで、「学習」という言葉をしいて「勉強」に置き換えようと提言しようとするわけではないが、市民の「勉強志向」をあなどらずに援助することの必要については強調しておきたい。

1991/4 「生涯学習か・く・ろ・ん — 主体・情報・迷路を遊ぶ —」学文社

http://mito3.jp/kakuron_all.txt

文化の格差

西原氏は、「姫キャラ」を含めた広義のプリンセスについて、三〇代、四〇代の女性が社会貢献活動などによる努力型であったのに対して、一〇代後半から二〇代は、「生まれながらの」自分らしさ体現型だと言う。そこでは、「男性から見られる」という意識から解放され、「女子としての自分」という満足があるというのだ。永田夏来氏は、量的調査の結果から、「夏フェス女子」は、幼少期に美術館・博物館訪問やクラシック視聴を経験した者が多いと言う。そして、このような「文化資本の高い女性」が、「夏フェス」での写真写りの良さと「かわいい」をネットで発信しているという。以上の楽しみを、吉光氏は、「心躍ることや心囚われることに尽きない現代人の暮らし」と表現している。

ブック

この本は、「かわいい」が、古典的な女らしさから、自分らしく生きたいと願う女子たちの希望の表れに変わったとして、ゲーム、ロック、歴女、ハロウィン、メイド、島ガールなどでの「かわいい」を追求する。「かわいいの氾濫は文化的未成熟の表れ」という批判に対しては、池田氏は、女性の活動領域の拡大など、社会がより多様性を求める時に必要となる感性ととらえる。従来の男性的とされていた領域に、もつと別のセンスや価値観を持ち込むことによって、男女とも心地よくその領域に関われるようになるというのだ。

西原氏は、「姫キャラ」を含めた広義のプリンセスについて、30代、40代の女性が社会貢献活動などによる努力型であったのに対して、10代後半から20代は、

ポスト〈カワイイ〉の文化社会学
女子たちの「新たな楽しみ」を探る

吉光正絵、池田太臣、西原麻里 編著
3780円 ミネルヴァ書房
☎075-581-5191

「生まれながらの」自分らしさ体現型だと言う。そこでは、「男性から見られる」という意識から解放された「女子としての自分」の満足があるという。永田夏来氏は、量的調査の結果から、「夏フェス女子」は、幼少期に美術館・博物館訪問やクラシック視聴を経験した者が有意に多いと言う。そして、この

ような「文化資本の高い女性」が、「夏フェス」での写真写りの良さと「かわいい」をネットで発信しているという。以上を、吉光氏は、「心躍る楽しみ」と表現している。評者は考える。人には個人や社会人としての成長とは別に、そのこと自体が癒しや「心躍る楽しみ」になる時間が大切だ。それが社会における新しい価値や文化の創造につながる。しかし、そこに格差があるとすれば、教育は、貧困な子どもに対して、文化資本提供の手を差し伸べることも考えたい。

(聖徳大学教授・西村美東士)

ポスト〈カワイイ〉の文化社会学
—女子たちの「新たな楽しみ」を探る—

<http://mito3.jp/syohyou/html/3670.html>

ボランティア 異質との出会い

大学生については、氏は他著で、社会人調査の結果から、大学在学時に「勉学第一」とした者は、仕事では良い成果を出していないと指摘している。組織での成功のためには、学生時代に「良好な友達づきあい」以上の質の「豊かな人間関係」による、異質な他者からの影響が大きいというのだ。

<http://mito3.jp/syohyou/html/3470.html>

ブック

溝上氏は高校生
の学習や生活が、大学での
学びや社会に出
てからの仕事や
人生に与える影
響を明らかにす
るため、201
3年に全国の高校2年生約4万
5千人から回答を得た。その後
大学1、2、4年、
社会人3年目の、
約10年間の追跡
調査を行うこと
にしている。

本書のキーワ
ードは（学校か
ら社会への）「ト
ランジション」
（移行）である。
「教室外学習」
「対人関係・課
外活動」「キャ
リア意識」の重要性が示唆され
たという。また、対人関係力の
弱い生徒は、知識習得型からア
クティブ型への学習の「拡張」
についていけないという新たな
仮説も提示している。

溝上氏は、クラスター分析に
より、「勉学」、「勉学そこそこ」、
「部活動」、「交友通信」、「読書マ
ンガ傾向」、「ゲーム傾向」、「行

どんな高校生が 大学、社会で 成長するのか

「学校と社会をつなぐ調査」からわかった
伸びる高校生のタイプ

溝上 慎一 著
京都大学高等学術研究推進センター・河合塾 編

溝上 慎一 責任編集／京都大学高等学術
研究推進センター・河合塾 編
2592円 学事出版 ☎03-3255-5471

どんな高校生が大学、 社会で成長するのか

事不参加」の7タイプを導き出す。
勉学タイプは、8割が部活動
と両立しており、「よく学び、将
来に向けて頑張り、自己成長を
実感している」タイプとされる。
しかし、大学生については、氏
は他著で、社会人調査の結果から、
大学在学時に勉学第一とした者
は、仕事では良い成果を出して
いないと指摘する。組織での成
功のためには、
学生時代に良好
な友達づきあい
以上の、質の豊
かな人間関係に
よる、異質な他
者からの影響が
大きいというの
だ。どちらも実
感できる話だ。

氏は、勉学タ
イプにおける部
活動と学習の両
立が大学生にな
ってから主体
的態度につな
がるかどうかを
今後の追跡調
査の課題として
いる。

評者は、高校
生から大学生
への「移行」に
おいて、部活
動の積極性を
超えたレベル
での自己開
発と社会的関
与に関する態
度変容が求め
られるのでは
ないかと思
う。

（聖徳大学教授・西村美東士）

「教育とは何か」を考えよう 1

西村美東士「生涯学習と市民参加」、望月雅和『子育てとケアの原理』第6章、2018年4月13日、北樹出版

(以下たんに自著「生涯学習と市民参加」と呼ぶ)

私たちは子どもの頃から自然と「教育」を受けているが、実は「教育とは何か」と問われると、よくわからなくなる。それは、学校教育だけを見て、教育を語ろうとしているからではないだろうか。

教育とは、学校以外にも 家庭、地域、職場、社会のさまざまな身近なところで、人が生きる 上での 大切な側面を扱ってきた活動である。それらの教育の中心にいる個人は、時には教育に疑問を感じ、時には教育を受け止めて成長する。

「教育とは何か」を考えよう 2

青少年について見てみると、彼らが自らの考えかたを確立し、社会にどうかかわるか、ポジショニング（位置決め）支援が求められている。そのほか、われわれの調査研究からは、1人で生き、1人で課題を解決するという個人完結型から、個人は社会のかかわりを大切にする社会開放型に転換することが大事だということもわかってきている。こうしたテーマにもふれながら、教育とは何か、生涯学習とは何かという本質に接近していきたい。



生涯学習とは何か

- 人々が自己のものの見方・考え方を生涯にわたる学びによってより発展させ、暮らしや仕事を充実させる自己決定の活動。
- 同時に、たがいに学びあい、支えあうことによって、地域や社会を形成する相互関与の活動。

生涯学習と生涯教育

昭和56(1981)年中央教育審議会答申『生涯教育について』

生涯学習 「今日、変化の激しい社会にあって、人々は、自己の充実・啓発や生活の向上のため、適切かつ豊かな学習の機会を求めている。これらの学習は、各人が自発的意思に基づいて行うことを基本とするものであり、必要に応じ、自己に適した手段・方法は、これを自ら選んで、生涯を通じて行うものである。その意味では、これを生涯学習と呼ぶのがふさわしい。」

生涯教育 「この生涯学習のために、自ら学ぶ意欲と能力を養い、社会の様々な教育機能を相互の関連性を考慮しつつ総合的に整備・充実しようとするのが生涯教育の考え方である。言い換えれば、生涯教育とは、国民の一人一人が充実した人生を送ることを目指して生涯にわたって行う学習を助けるために、教育制度全体がその上に打ち立てられるべき基本的な理念である。」

「学習」の独走

臨教審(昭和59(1984)～62(1987)年)「ここでは学校教育および職業能力開発に関する学習活動のほか、スポーツ活動、文化活動、趣味・娯楽、ボランティア活動、レクリエーション活動など、人間が生涯にわたって豊かに生きていくため自ら向上を目指したり、活動自体に楽しみを見い出す主体的な活動を『学習』としてとらえた」(臨時教育審議会『審議経過の概要その3』第2章、昭和61(1986)年)。

生涯学習の定義

自己管理型学習 (Self-Directed Learning)

平成2年(1990年)中教審答申

「生涯学習の基盤整備について(答申)」

- 1) 生涯学習は、生活の向上、職業上の能力の向上や、自己の充実を目指し、各人が自発的意思に基づいて行うことを基本とするものであること。
- 2) 生涯学習は、必要に応じ、可能なかぎり自己に適した手段及び方法を自ら選びながら生涯を通じて行うものであること。
- 3) 生涯学習は、学校や社会の中で意図的、組織的な学習活動として行われるだけでなく、人々のスポーツ活動、文化活動、趣味、レクリエーション活動、ボランティア活動などの中でも行われるものであること。

よりよい社会を作り出す社会教育の役割

- 社会形成者の育成

池上彰「民主主義と公民館運動」

<https://www.youtube.com/watch?v=nbaUaxgv3HM>

ユネスコ公共図書館宣言1994

社会と個人の自由、繁栄および発展は人間にとっての基本的価値である。このことは、十分に情報を得ている市民が、その民主的権利を行使し、社会において積極的な役割を果たす能力によって、はじめて達成される。建設的に参加して民主主義を発展させることは、十分な教育が受けられ、知識、思想、文化および情報に自由かつ無制限に接し得ることにかかっている。

地域において知識を得る窓口である公共図書館は、個人および社会集団の生涯学習、独自の意思決定および文化的発展のための基本的条件を提供する。

この宣言は、公共図書館が教育、文化、情報の活力であり、男女の心の中に平和と精神的な幸福を育成するための必須の機関である、というユネスコの信念を表明するものである。

したがって、ユネスコは国および地方の政府が公共図書館の発展を支援し、かつ積極的に関与することを奨励する。

2012年12月「図書館の設置及び運営上の望ましい基準」のポイント(薬袋秀樹)

【ポイント1】課題解決支援サービスが必要(可能)であることを明確に示したこと

【ポイント2】図書館のサービス・運営の具体的な在り方を示したこと

【ポイント3】図書館経営の方法を示したこと

【ポイント4】目標基準例を示したこと

【ポイント5】必要な図書館予算を確保するのは誰か？市町村か、都道府県か、国か？

2012年12月「図書館の設置及び運営上の望ましい基準」

【ポイント1】課題解決支援サービスが必要（可能）であることを明確に示したこと

- ・図書館が地域社会に貢献するには、従来のサービスを提供するだけでなく、地域の課題解決を支援するサービスを行う必要がある。
- ・図書館は、この基準を手がかりとして、地域の様々な課題の解決に役立つことを具体的な事例と関係者の意見によって示すことができる。図書館側では、そのための説明資料の用意が必要である。
- ・図書館は、これまでも、それらの課題の解決に貢献しており、その充実・発展を図るものである。貸出サービスによる読書支援と並行して行うべきものであり、貸出サービスでは、課題解決に役立つ図書の貸出を伸ばすことをめざす。
- ・図書館には、課題解決支援サービスの具体例を実際に示すことが求められている。

【ポイント2】図書館のサービス・運営の具体的な在り方を示したこと

- ・図書館が行うべきサービス・運営のチェックリストとして用いることができる。この内容を適切に理解し実施するには、図書館は、関係資料によって具体的な内容や方法を学ぶ必要がある。
- ・図書館サービスの基礎は貸出サービスや予約サービスである。
- ・インターネットの普及、人口の減少等の今後の社会の変化を予測した対応が必要である。「情報活用能力」の学習などが重要になると考えられる。

2012年12月「図書館の設置及び運営上の望ましい基準」

【ポイント3】図書館経営の方法を示したこと

- ・図書館経営の中心は、公立図書館による自己点検、自己評価である。「基本的運営方針」「目標」「指標」「当該年度の事業計画」は公立図書館が自分で策定・選択する。
- ・都道府県教育委員会は、自己点検・評価を奨励し、その実施状況を調査することが望ましい。図書館経営には専門知識が必要になるため、地方自治体間の情報交換・経験交流が必要になる。

【ポイント4】目標基準例を示したこと5)

- ・「目標」には「数値目標」と「質的目標」がある。数値目標の設定方法と「目標基準例」は、「望ましい基準」には含まれておらず、「協力者会議報告書」の「参考資料」2に示されている。
- ・これは、全国市町村立図書館の人口段階別貸出密度(住民1人当たり貸出資半徴)の上位10%の市町村の25項目に関する平均数値で、実質的には上位5%の数値で、これによって、高い目標基準例を示すことができた。これをもとに「数値目標」を定め、自己評価に用いることが期待されている。
- ・目標基準例の具体的な活用方法(数値目標の設定の仕方)の検討、統計数値のない項目(レファレンスサービス、障がい者サービス、学校支援等)に関する目標基準例(サービス水準例)の調査・探索が必要である。

【ポイント5:必要な図書館予算を確保するのは誰か？市町村か、都道府県か、国か？

- ・図書館予算を確保するのは、最終的には、未利用者を含む住民である。住民の支持が必要である。
- ・図書館関係者は、住民に対して、さらには議会・行政関係者に対して、読書や情報、図書館の意義、図書館の利用方法について、あらゆる手段を駆使して説明する必要がある。

情報サービス・地域課題への対応

(二) 情報サービス

- ①市町村立図書館は、インターネット等や商用データベース等の活用にも留意しつつ、利用者の求めに応じ、資料の提供・紹介及び情報の提示等を行うレファレンスサービスの充実・高度化に努めるものとする。
- ②市町村立図書館は、図書館の利用案内、テーマ別の資料案内、資料検索システムの供用等のサービスの充実に努めるものとする。
- ③市町村立図書館は、利用者がインターネット等の利用により外部の情報にアクセスできる環境の提供、利用者の求めに応じ、求める資料・情報にアクセスできる地域内外の機関等を紹介するレフェラルサービスの実施に努めるものとする。

(三) 地域の課題に対応したサービス

市町村立図書館は、利用者及び住民の生活や仕事に関する課題や地域の課題の解決に向けた活動を支援するため、利用者及び住民の要望並びに地域の実情を踏まえ、次に掲げる事項その他のサービスの実施に努めるものとする。

ア就職・転職、起業、職業能力開発、日常の仕事等に関する資料及び情報の整備・提供
イ子育て、教育、若者の自立支援、健康・医療、福祉、法律・司法手続等に関する資料及び情報の整備・提供

ウ地方公共団体の政策決定、行政事務の執行・改善及びこれらに関する理解に必要な資料及び情報の整備・提供

これからの司書に求められる資質・能力

司書資格取得のために大学において履修すべき図書館に関する科目の在り方について(報告) 平成21年2月「これからの図書館の在り方検討協力者会議」

○図書館は、住民の身近にあって、図書やその他の資料を収集、整理、保存し、その提供を通じて住民の学習を支援するという役割に加え、特に近年は、地域が抱える課題の解決を支援するための図書館サービスを行うことが求められている。平成20年2月の中央教育審議会答申「新しい時代を切り拓く生涯学習の振興方策について」においても、図書館について、社会教育施設の中でも利用度の高い、いわば「地域の知の拠点」として、今後も国民が生涯にわたって自主的な学習を行っていく上で、大きな役割を果たしていくことが期待されていると指摘されている。

○社会の変化に対応して図書館を改革し、地域を支える知の拠点として必要な機能を備えた「これからの図書館像」を実現するには、司書が、地域社会の課題や人々の情報要求に対して的確に対応できるよう、図書館に関する基礎的な知識・技術とともに、課題解決を支援するための行政施策・手法や図書館サービスの内容と可能性を理解することが必要である。また、情報技術に関する知識、法制度や行政に関する知識、図書館の経営能力を身につけ、特にコスト意識や将来のビジョンをもつことが重要である。

持続可能な開発目標(SDGs)と図書館

館との関係 1 第2次相模原市図書館基本計画より



持続可能な開発目標(SDGs)と図書館との関係 2

第2次相模原市図書館基本計画より

本計画において、特に関連の深いゴール



「4 質の高い教育をみんなに」



「10 人や国の不平等をなくそう」



「11 住み続けられるまちづくりを」



「17 パートナーシップで目標を達成しよう」

ウェルビーイングを目指して

教育振興基本計画(2023年6月閣議決定)

持続可能な社会の創り手の育成 ㊦ 日本社会に根差したウェルビーイングの向上

ウェルビーイングとは、身体的、精神的、社会的に良好な状態にあることを指す概念です。単に病気でないだけでなく、**幸福で満たされた状態**を意味します。WHO(世界保健機関)が健康の定義に用いたことで広まり、近年ではビジネスや教育など、様々な分野で注目されています。

個人的なことがらとして限定的にとらえられがちな「幸福感」が、社会的なウェルビーイングとしての人間関係、社会とのつながり、所属感、貢献感に支えられることに注目する必要があります。

ユニセフ・イノチェンティ研究所が発表した報告書「レポートカード16ー子どもたちに影響する世界：先進国の子どもの幸福度を形作るものは何か」(英語版：令和2(2020)年9月刊行／日本語版：令和3(2021)年2月刊行)によれば、我が国の子供については、「身体的健康」では、38 か国中1位であったのに対し、「精神的幸福度」では37 位となっている。

【書評】「関係性の貧困」に生きる少女たち

店長は、少女の話を聞き、励まし、ほめて叱り、居心地の良さを与える。リーダーになりそうな少女については、過ごしやすいルール作りや客の喜ぶオプションを考えさせて、やりがいを持たせる。受験を控えている少女には学習支援を行い、厳しい家の子にはアリバイづくりの協力をし、金銭管理ができない少女には貯金代講サービスも行う。オーナーはときどき来て、「君には期待している」などと声をかけ、少女を喜ばせる。また、日常的には、スカウトを通してフォローし、うまく適応できない少女には他の店を紹介したりする。「お前の夢はなんだ」など、プライドを持たせるワークショップを行っている店もある。このようにして、卒業後も、系列の風俗店で倒を見るという。

ブック

本書は、親からの虐待や性被害などの心の傷を抱え、「JKお散歩」などの裏社会で働く少女の取材集である。児童相談所や警察については、親に通報されているため敬遠しがちである。

「普通の少女」や「ルールに従順なタイプ」などの「扱いやすいタイプ」も登場する。客の性的欲望への対応が苦痛なのは、すべての少女に共通しているが、「わかってくれる大人がいない」という「関係性の貧困」の中で、このような仕事にもプライドを持つという。

スカウトは、個人のタイプやニーズに合わせて、こまめに連絡をし、店につなぐ。店長は、少女の話を聞き、励まし、ほめて叱り、居心地の良さを与える。リーダーになりそうな少女について

女子高生の裏社会
「関係性の貧困」に生きる少女たち

仁藤夢乃 著
821円 光文社新書
☎03-5395-8289

は、過ごしやすいルールや客の喜ぶオプションを考えさせて、やりがいを持たせる。学習支援や貯金代行も行う。オーナーはときどき来て、「君には期待している」などと声をかけ、少女を喜ばせる。「お前の夢はなんだ」などというワークショップも行なう。高校卒業後も、系列の風俗店で働けるよう面倒を見る。

評者は考える。
「みんなを」ではなく、「自分だけを」かまうという若者の関係性への渴望は、われわれもよく感じるところだ。教育では、これをそのまま受け入れるわけにはいかない。しかし、少女たちを取り巻く「裏社会」は、このような隙間をついて少女たちを取り込んでいく。これらの「居場所」に対抗して、自己を社会に位置付けることのできる自立のための「居場所」を提供する意義は大きい。それは、卒業後の生涯の充実をも視野に入れたものでなければならぬ。

(聖徳大学教授・西村美東士)

仁藤夢乃『女子高生の裏社会－「関係性の貧困」に生きる少女たち』光文社新書、2014/8/7
<http://mito3.jp/syohyou/html/3280.html>

「参画型子育てまちづくりから見た 社会開放型子育て支援研究の展望」

2010/03/31 西村美東士「参画型子育てまちづくりから見た社会開放型子育て支援研究の展望」聖徳大学私立大学学術研究高度化推進事業社会連携研究推進事業『連鎖的参画による子育てのまちづくりに関する開発的研究平成17～21年度研究集録』、pp.1-14

<http://mito3.jp/seika/2820.pdf>

【子育て支援研究の展望】本稿は、「参画型子育てまちづくり」から見た「社会開放型子育て支援研究」の展望を述べたものである。第一に「社会開放型子育て観」への転換プロセスの解明とプログラム開発、第二に「社会開放型子育て観」による研究領域の拡大、第三に「子育て支援学の構築」である。ここで、原理及び関係する学問群・関係学会、歴史、分野・領域・研究対象・テーマ、研究方法・手法群などの各領域における研究を体系的に進めていく必要があるとした。最後に次のとおり研究の展望について述べた。第一は、教育学研究がつねに問題としてきた「学習者の自主的活動」と「教育のもつ目的追求活動」の二項対立を解決する糸口になる。第二は、社会参画理念を実現する道筋を明らかにする。第三は、親の子育て学習に関する統合的アプローチを進める。第四は、「子育て能力の到達目標と構造」をよりより鮮明にする。第五は、子育てに関する工学的アプローチを進める。第六は、共生社会論の現実化への取り組みの可能性である。

親子読書運動・地域文庫活動

- ・ 子ども読書活動優秀実践団体(者)

https://www.mext.go.jp/a_menu/sports/dokusyo/shouka_i/cont_002/001.htm

科学読物研究会の例

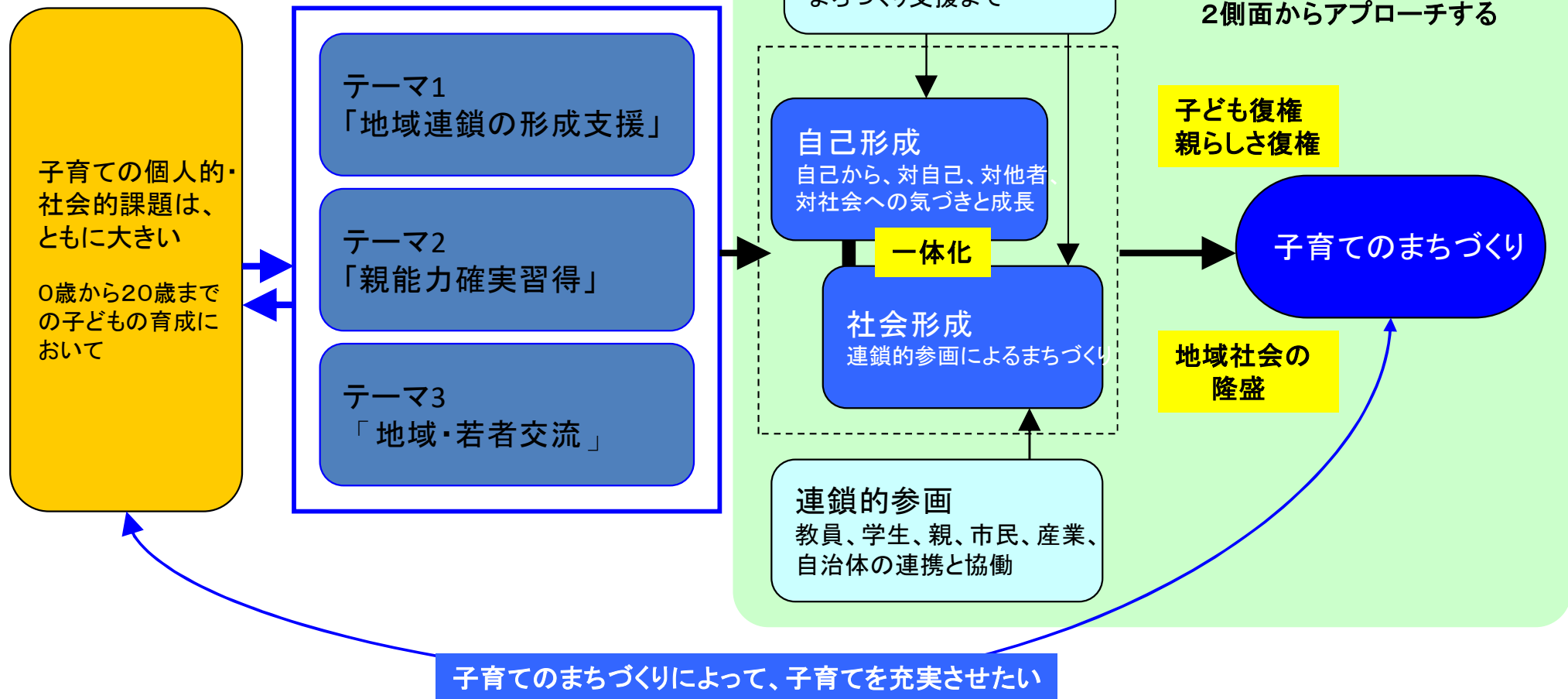
科学読物研究会は、昭和43年に女性科学者吉村証子の呼びかけで発足し、子どもたちが科学の本のおもしろさを知り、科学をもっと楽しむことを願って化学の本の研究、普及、創作に努めている。会員も全国にわたり、子どもを持つ親、文庫関係者、図書館員、小学校から大学までの教師、幼稚園や保育園の先生、作家、画家、編集者など多様な会員がいる。月1回の例会以外にも、新刊研究会、くらべ読みの会、科学あそびの会などの分科会活動も充実しており、長年にわたり、子どもが科学の本を楽しむ機会を与えている。

連鎖的参画による子育てのまちづくり

聖徳大学私立大学学術研究高度化推進事業社会連携研究推進事業
『連鎖的参画による子育てのまちづくりに関する開発的研究録』

少子化インパクトの軽減

子育てを充実し、子どもの良さを発揮させたい



地域とつながる

- ◆ 沖縄県立図書館のメッセージを考える
 - － 琉球・沖縄の「知と心・文化創造のランドマーク」
(沖縄県立図書館紹介ガイドPV13分)

佐野市：ワークショップによる生涯学習都市宣言文章作成

日本生涯教育学会e事典 西村美東士「佐野市の市民参画による生涯学習推進」

<http://ejiten.javea.or.jp/contentf37a.html>

http://ejiten.javea.or.jp/doc/50008_1.pdf

宣言文冒頭の「私たち佐野市民は、ひとりひとりが学習をとおして個人として深まり、」は、個人主導の「楽しい」学習による個の深まりを表わしている。

続く「その個性を生かし、協働して佐野のまちづくりに参画します。」は、学習によって深まった個によるまちづくり参画の意義を訴えている。同協議会は、その参画の範疇について、「挨拶から始まる社会形成」という視点から、幅広く、すべての市民が現に行っていることとしてとらえている。これを、「個人主導」としての生涯学習活動と、「社会参画」としてのまちづくり活動との連結ととらえることができる。

次の「たがいに自分らしさを認めあい、支えあい、はぐくみあう仲間をつくります。まちづくりへの参画のなかで、自分らしさを佐野のまちに咲かせます。」は、個の深まりが、支持的風土(図1「支持的風土と防衛的風土」、Gibb、C.A.、1969)の集団において、他者と関わることによってより深まるとともに、「私らしさ」へのニーズを充足させることを表わしている。

同宣言は、市民委員のワークショップスタイル上の観点に基づき、「ふるさと」「環境・安全」「子育て」の3領域について、学習と参画による生涯学習のまちづくり像を示したものといえる。

【事例】佐野市生涯学習都市宣言

市の生涯学習の方向性を明確に示し、生涯学習活動を市民に対して広く呼びかけるため、次のとおり「生涯学習都市」を宣言しました。

「楽習と参画のまち佐野」都市宣言

私たち佐野市民は、ひとりひとりが楽習をとおして個人として深まり、その個性を生かし、協働して佐野のまちづくりに参画します。たがいに自分らしさを認めあい、支えあい、はぐくみあう仲間をつくります。まちづくりへの参画のなかで、自分らしさを佐野のまちに咲かせます。

私たちはふるさとを守り、はぐくみます。家庭、地域、学校、職場のなかで、世代や価値観の違いを越えた心の交流を広め、安全で安心なまちをつくります。子育てのなかで親が育ち、こどもが愛されて育つまちをつくります。

私たちは佐野のもつすばらしい自然と文化を学びます。ふるさとの自然を守り、ふるさとかから文化を発信します。

ここに佐野市を「生涯学習都市」とすることを宣言します。

平成19年12月25日

佐野市

「生涯学習関連施設」のとらえ方(佐野市)

佐野市生涯学習拠点マップ(佐野全図) (平成19年3月現在)

ここでは、公共施設を中心に、各拠点を地図に表示しました。生涯学習や仲間づくり、まちづくりの拠点は、この他にも多く存在します。

いろいろな立場の人たちが、各拠点で活躍し、交流を深めることで、点が線となり、「つながり」が生まれます。各拠点や地域のよさを再認識し、活動を通して「つながり」をもち、われわれのまちをよりよくしていきましょう。そのきっかけとなる「まちづくり参画拠点マップづくり」を、市民の仲間たちに広く呼びかけます。

生涯学習拠点	
103	界地区公民館
106	旗川地区公民館
107	吾妻地区公民館
108	赤見地区公民館
112	常盤地区公民館
113	氷室地区公民館

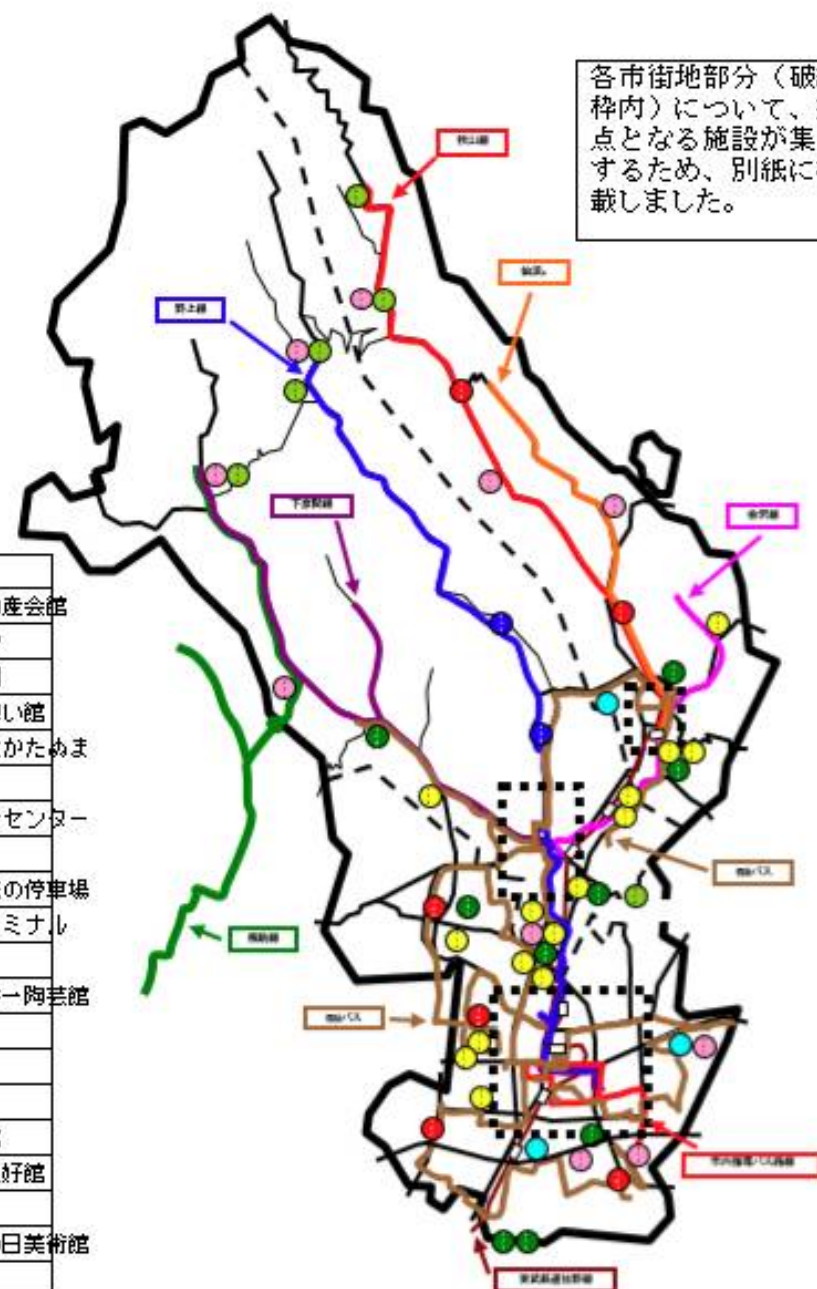
スポーツ・健康づくり拠点	
201	運動公園
203	中運動公園
206	田沼西運動場
207	新吉水第2公園
210	若宮球場
211	秋山川緑地
213	渡良瀬川野球場
214	渡良瀬川ソフトボール場

地域参画活動拠点	
301	田沼南部地区コミュニティセンター
302	新吉水地区コミュニティセンター
303	栃本地区コミュニティセンター
304	田沼北部地区コミュニティセンター
306	山園地区コミュニティセンター
307	会沢地区コミュニティセンター
310	田沼福祉コミュニティセンター
311	〇生隣保事業相談所
312	大橋町西部集会所
314	赤見町山崎集会所
315	免島町集会所
316	並木町田中集会所
317	小見町南小見集会所
318	多田町集会所
319	富士見町集会所

環境のまちづくり拠点	
701	みかも山観光物産センター
702	〇生清掃センター
703	佐野地区衛生センター
自然体験活動拠点	
801	作原野外活動施設
802	蓬山ログビレッジ
803	貸農園クラインガルテン
804	古代生活体験村・ウッドランド
805	青少年教育キャンプ場
806	唐沢教育キャンプ場

旅人との交流拠点	
402	みかも山観光物産会館
403	蓬山レストラン
404	根古屋森林公園
405	須花坂公園・憩い館
407	道の駅とまんなかたぬま
408	夕あきやま学寮
409	一農林業家高齢者センター
410	菜鳥館
412	タアグリタウン花の停車場
413	新都市バスターミナル

郷土学習拠点	
501	人間国宝田村耕一陶芸館
502	郷土博物館
503	〇生伝承館
504	〇生化石館
505	吉澤記念美術館
506	郷土資料保存三好館
507	東石美術館
508	安藤勇寿少年の日美術館
509	三好記念館



まちの生涯学習推進に対して図書館が発言力を持とう

前出「司書資格取得のために大学において履修すべき図書館に関する科目の在り方について(報告)」

平成21年2月 「これからの図書館の在り方検討協力者会議」

○社会の変化に対応して図書館を改革し、地域を支える知の拠点として必要な機能を備えた「これからの図書館像」を実現するには、司書が、**地域社会の課題**や**人々の情報要求に対して的確に対応**できるよう、図書館に関する基礎的な知識・技術とともに、**課題解決を支援するための行政施策・手法や図書館サービスの内容と可能性**を理解することが必要である。

ICT活用の展望

- デジタル技術の活用により、オンライン学習プラットフォームやAIを活用した学習教材など、時間や場所にとらわれずに学習できる環境が整いつつあります。
- 岡山県立図書館では、電子図書館システム「デジタル岡山大百科」を作成し、県民に岡山県立図書館資料を提供しています。同システム内では、総合目録ネットワークである「岡山県図書館横断検索システム」や資料の本文やコンテンツの内容を視聴できる「郷土情報ネットワーク」など3つの機能をメインとして展開。「郷土情報ネットワーク」では、メタデータによる情報管理がなされているため多彩な検索が可能となり、探究活動に役立てられています。
- このようにして、学習教材のアーカイブ化を進めることによって、「いつでもどこでもだれでもなんでも」の生涯学習の実現が期待できます。

書評 反転授業

反転授業は一般に「説明型の講義など基本的な学習を宿題として授業前に行い、個別指導やプロジェクト学習など知識の定着や応用力の育成に必要な学習を授業中に行う教育方法」を指す。山内氏らは、「従来の授業では学習内容の説明に授業時間の大半を使うため、個別指導や協調学習など教員や学習者同士の相互作用的な活動に十分な時間を確保することができなかった」とし、「従来の授業相当分の学習をオンラインで授業前に行うことで、知識の定着や応用力の育成を重視した対面授業の設計が可能になる」と主張する。

評者は、次のことを再認識すべきと考える。生徒「みんな」が同様な学習成果をあげるということはない。学習は本質的に「個人的事象」であるのだから。能力別指導が、ICT活用により個人別指導にまで下りてきて、その上で生徒間協働が図られる条件が整いつつあると感じる。

本書の監修者山内祐平氏は、昨年10月、東京大学で「反転学習社会連携講座」を開設した。翌11月、佐賀県武雄市教育委員会は小学校でのICT環境整備による反転授業試行を発表した。現在、全国の教師がSNSを通して、スキルやコンテンツ共有の活動を行っている。

反転授業は一般に「説明型の講義など基本的な学習を宿題として授業前に行い、個別指導やプロジェクト学習など知識の定着や応用力の育成に必要な学習を授業中に行う教育方法」を指す。

山内氏らは、「従来の授業では学習内容の説明に授業時間の大半を使うため、個別指導や協調学習など教員や学習者同士の相互作用的な活動に十分な時間を確保することができなかった」とし、「従来の授業相当分の学習をオンラインで授業前に行うことで、知識の定着や応用力の育成を重視した対面授業の設計が可能になる」と主張する。

本書では、次のようにそのメ



反転授業

リットを挙げて
いる。
生徒のなじん
でいる言語（メ
ディア）で語り
かけられる。（生
徒会等）多忙な
生徒の時間の自
己管理を助ける。
自己の理解度
や学力に応じて
進捗管理できる。
つまり、生徒を
助ける。

生徒と教師及び
生徒間の関与を
増やせる。教師
の生徒理解を深
める。学習の個
別化をもたらし
教室の透明性を
高め、保護者自
身の学習や学校
への態度が変わ
る。

評者は、次の
ことを再認識す
べきと考える。生徒「みんな」
が同様な学習成果を挙げるとい
うことはありえない。学習は本
質的に「個人的事象」であるの
だから。能力別指導が、ICT
活用により個人別指導にまで下
りてきて、その上で生徒間協働
が図られる条件が整いつつある
と感じる。

（聖徳大学教授・西村美東士）

ジョナサン・バーグマン、アーロン・サムズ 著
上原裕美子 訳、山内祐平、大浦弘樹 監修
1620円 オデッセイ コミュニケーションズ
☎03-5293-1888

ジョナサン・バーグマン、アーロン・サムズ
『反転授業』オデッセイコミュニケーションズ
発売日：2014/5/20

<http://mito3.jp/syohyou/html/3270.html>

社会教育の定義 人々の暮らしと仕事に結びついた学習

教育基本法 平成18～ 旧

(社会教育)

第十二条 個人の要望や社会の要請にこたえ、社会において行われる教育は、国及び地方公共団体によって奨励されなければならない。

2 国及び地方公共団体は、図書館、博物館、公民館その他の社会教育施設の設置、学校の施設の利用、学習の機会及び情報の提供その他の適当な方法によって社会教育の振興に努めなければならない。

第七条 (社会教育) 家庭教育及び勤労の場所その他社会において行われる教育は、国及び地方公共団体によつて奨励されなければならない。

2 国及び地方公共団体は、図書館、博物館、公民館等の施設の設置、学校の施設の利用その他適当な方法によつて教育の目的の実現に努めなければならない。

社会教育の定義 人々の暮らしと仕事に結びついた学習

社会教育法

(社会教育の定義)

第二条 この法律で「社会教育」とは、学校教育法(昭和二十二年法律第二十六号)に基き、学校の教育課程として行われる教育活動を除き、主として青少年及び成人に対して行われる組織的な教育活動(体育及びレクリエーションの活動を含む。)をいう。

(国及び地方公共団体の任務)

第三条 国及び地方公共団体は、この法律及び他の法令の定めるところにより、社会教育の奨励に必要な施設の設置及び運営、集会の開催、資料の作製、頒布その他の方法により、**すべての国民があらゆる機会、あらゆる場所を利用して、自ら實際生活に即する文化的教養を高め得るような環境を醸成するように努めなければならない。**

2 国及び地方公共団体は、前項の任務を行うに当たっては、社会教育が学校教育及び家庭教育との密接な関連性を有することにかんがみ、**学校教育との連携の確保に努めるとともに、家庭教育の向上に資することとなるよう必要な配慮をするものとする。**

(平一三法一〇六・一部改正)

成人教育の前提

ペダゴジーとアンドラゴジー(M.ノールズ「成人学習者」1973年)

[理論的前提]	{ペダゴジー}	{アンドラゴジー}
○自己概念	依存性	増大する自律性
	dependency	self-directiveness
○経験	役立たない	豊かな学習資源である
○レディネス	生物学的発達 社会的圧力	社会的役割の発達課題
○時間的展望	待時性	即時性
○学習への導入	科目中心	課題中心
[学習場面の構成]	{ペダゴジー}	{アンドラゴジー}
○学習環境	権威志向	相互協力
	フォーマル	インフォーマル
	競争的	共働的・他を尊重
○計画立案	教師による	相互的な立案
○ニーズの診断	教師による	相互的な自己診断
○目標設定	教師による	相互的な協議
○学習様式	科目の論理	レディネスに対応
	内容単元	問題単元
○学習活動	伝達の技術	実験的方法(探求)
○評価	教師による	相互的なニーズの再診断 相互的なプログラム測定

社会教育行政の意義・役割と 一般行政との連携

- 社会教育行政とは何か 図書館設立時は盛り上がったが
- 社会教育行政の課題
- 市民自治との関係
- 生涯学習推進における一般行政の役割

【事例】豊島区生涯学習センター機能の実現に向けての意見書 ―「人づくり」より「われづくり」―

「人づくり」ということがよく言われますが、行政などが人をつくるものではありません。子どもから大人まで、自らが自らをつくっているとわれわれは考えます。人材育成の本質は、「人づくり」ではなく「われづくり」にあるといえます。同時に、区民一人一人の自己の充実のための学びは、人によって支えられ、地域での区民同士の学びあいと支えあいは、この意見書がめざす生涯学習センターをはじめとする社会的支援機能によって支えられると考えます。

本意見書が要望する生涯学習センターとは、区の全域に広がる多様な学習や地域づくりのための各センターの拠点となる専門的センターです。その「センター・オブ・センター」機能を、区民との協働によって発揮することによって、「つどう・つながる・つなげる・つくりだす」という理想像が実現できるものと考えます。そして、区民一人一人も、そのような環境と活動のなかでこそ、

「われづくり」を味わい、さらには「地域づくり」のなかで自己を発揮し、社会に発信できるのではないのでしょうか。

社会教育の方法 どのような苦勞をしてきたか 寺中構想の「伝統」を大切にしたい

1999/3西村美東士「癒しの公民館－新しき伝統」全日本社会教育連合会『社会教育』54巻3号、pp.34-37

<http://mito3.jp/seika/1690.pdf>

1癒される場としての公民館－寺中構想の再評価

2血縁・地縁から問題縁へ－水平異質共生のコミュニティ

3住民の自治能力を向上させることよりも、まず大切なのは癒しと安心－過去の学校のような集団づくりはもうやめよう

4「地域社会に役立っている私」という住民の存在確認－コミュニティに癒しを広げる公民館の公的役割

社会教育の方法 どのような苦勞をしてきたか 寺中構想の「伝統」を大切にしたい

生涯学習は個人の「どこまでも知りたい」という内発的動機に基づくもっぱら自己実現の行為といえよう。しかし、その自己実現は、社会的認知・承認の欲求の充足なくしては、ほぼ達成不可能である。その点では、マズローが社会的欲求を、自己実現の欲求や自我欲求よりも前のレベルに位置づけたことは現在でも通用する。

ただし、現代社会においては社会的欲求こそ一番満たされにくく、それゆえ多くの個人にとっては最高次の欲求にまで高まっているのかもしれない。本論も、この現代の欲求に応える公民館経営を提起しようとしたものである。

もちろん、社会的承認は、先述の3つの自己決定活動以外にも、本来、家族や職場への帰属意識などによって満たされるはずのものである。しかし、そこに頼りすぎることがむしろ病理を生み出しているのが現代である。これに気づいた一部の市民たちが自己決定活動に踏み出しているのだろう。そこで得られるのが、社会的役割の遂行と、それによる社会的承認を実感できる社会貢献のチャンスである。そして、公的課題の学習も、公民館が地域の総合的な教育施設であるがゆえに、学習者がその学習成果を社会貢献につなげていく条件を十分に備えている。

今日、多くの若者が「自分は社会において意味のある存在である」と胸を張れない状況がある。そういう人たちに対して、「あるがままの自分が両手を広げて歓迎される」居心地よいサンマにおける癒しだけにとどまらず、さらには「地域社会に役立っている私」という究極の癒しのチャンスまでもを提供する公民館であってほしい。今後の公民館活動の「究極の」ねらいは、「住民の自治能力の向上」ではなく、学習者一人一人にとっての、その二つの癒しにおくべきではないか。

社会教育の改革

(牧野篤は)社会教育法23条の営利や政治に関わる禁止事項について、「営利目的だけの事業や特定の営利事業者、特定の政党・候補者、特定の宗教や宗教団体の利益・便宜を図ってはいけない」となっているのであって、「特定」とは、「普通に受け止めれば、特に指定した一部のということですから、そうでなければ広くいろんなことをやってもいいということになります」と緩やかにとらえるよう主張している。牧野の言うように「現実の運用では多くの自治体で、金もうけはいけない、政治活動はいけないとか、教育施設だからあれこれやってはいけないことでいっぱいになっていますけれども、本来は基本的には何をやってもいいと解釈できるような条文になっているはずです」と述べ、「今では、さらに厳しくて、飲食禁止とか、酒は飲んじゃいけないとか、教育機関だから、教育施設だからといわれますけれども、酒を飲まないで地元のことを語れますか」と述べている。

ボランティア活動や非営利活動だけでなく、収益を伴う事業においても、それがまちづくりに果たす重要な役割を認識し、奨励する必要があります。

一斉集団承り型の打破 十進法だけの世界からSNS等情報発信へ

「SNS コミュニティとアンバサダーで売り上げを伸ばす」

多摩美術大学教授 佐藤達郎先生より紹介を受けたページ リンク集

Dumb Ways to Die

[リンク](#)

DOVE EVOLUTION

[リンク](#)

[リンク](#)

T-mobile dance

[リンク](#)

[リンク](#)

Sony BRAVIA

[リンク](#)

[リンク](#)

祝！九州 九州新幹線全線開CM 1

80秒

[リンク](#)

[リンク](#)

Carlsberg stunts with bikers in cinema

[リンク](#)

IBM Smarter City

[リンク](#)

Southern Comfort | Beach | Whatever's Comfortable

[リンク](#)

Oreo Scores On Super Bowl Blackout

[リンク](#)

説明：Oreo が Super Bowl の停電のとき、担当者がリアルタイムにPVを発信して「得点した」。

持続可能な収益を目指して 1

ーソーシャルビジネス

ソーシャルビジネス(SB)とは、障害者支援、子育て支援、貧困問題、環境保護、まちづくり・まちおこし等の社会的課題の解決を目的とした持続的な事業活動である。従前の営利を目的とした典型的な「会社」とは異なり、また、無報酬の善意に依存する「ボランティア活動」とも異なる新しいスタイルの事業形態である。SBは、社会的課題の解決に対して事業性を見出し、「新たな産業・新たな働き方」を創出する主体である。このような活動が、近い将来には行政、企業、市民の協働パートナーとなることが期待される。ソーシャルビジネスとは社会問題解決を目的とした事業で、その領域は貧困や差別、環境問題など、多岐にわたります。最大の特徴は、寄付金などの外部資金に頼らず自社で事業収益を上げることで継続的な社会支援を可能にしている点です。

駒崎弘樹『社会を変えたい人のためのソーシャルビジネス入門』PHP新書、2015/12/16

彼は2004年にNPOフローレンスを設立し、日本初の「共済型・訪問型病児保育」サービスを開始した。10年後に待機児童問題解決のため「おうち保育園」を創設し、これが後に「小規模認可保育所」として国策に採用された。本書では、「国に事業をパクってもらい、社会変革を行う方法」として、視察を受け入れ、官僚に「肝」と費用対効果を伝え、政策化につなげるよう助言する。また、「現実はもっと厳しいよ」と批判する「ドリームキラー」に対しては、「貴重な意見ありがとう。でもまあ、俺はやるけどね」という「スルー力」の必要を説くとともに、一割くらいは「よい批判」があるので、「なんで？」と聞き返し、彼らのライフスタイルを推察し、ターゲットとすべき人物像を発見するという、いわば「生きる力」の具体的発揮方法を示している。

持続可能な収益を目指して 2

－自治会ビジネス

大山自治会事務所では、「行政よりも早く問題を解決する」ことを掲げ、専用の携帯電話を持ち、住民からの相談等に24時間対応している。土日は休み、平日は17時までという市役所の対応状況の中で、住民が安全・安心に暮らすには何が必要かを考えた結果、このような体制を取るようになったという。

・「大山ママさんサポートセンター」の運営

地域で子どもを育て、地域で高齢者を見守るため、大山団地を含む砂川地区の家庭への相談や支援業務を行っている。子どもについては、親の地域行事や入院時の一時保育も手掛けている。

・高齢者対策

毎日の両隣の見守りに加え、電気、ガス、水道、新聞、牛乳配達業者や近隣商店等が連携した見守りネットワークがあり、異常時の自治会への通報体制が整えられている。このネットワークにより、様々な目で何重にも安否確認が行われ、平成16年から現在まで孤独死ゼロを実現している。また、痴呆の早期発見にも役立っている。

個人の充実のために

あらためて「個の深み」を考える

<http://mito3.jp/seika/1000.pdf>

集合学習:集会学習+集団学習 ICTと関連して

徳島大学高度情報化基盤センター『広報』第9巻 2003.12発行

西村美東士「人と学びのネットワークとしての情報教育」

<http://mito3.jp/seika/2290.txt>

社会教育では「集合学習」を「集団学習」と「集会学習」に区分けしている。集団学習では、ただ集まるだけでなく、学習者同士の関与(相互教育)が期待される。そして、学級・講座などは「集団学習」として位置づけられるのである。学内の「集合学習」もそうであってほしい。

また、ワークショップの特徴の一つとして「笑いが絶えない」が挙げられる。1台のパソコンを囲んで、5人程度のグループがわいわい騒ぎながら、何か成果物をつくりだす。そういう光景が学内のあらゆるところで見られるようになると楽しいだろう。

貸出用ノートパソコンを多数備えて、学内のすべての教育の場でコンピュータが使えるようにしておけば、それは実現可能と考える。

学習は本来個人的事象

「学習は本来個人的事象」であり、学習者自身が、自分のペースで、自らの興味や価値観、能力、レディネス(学習への準備状態)、背景となる体験、これまでの学習や訓練の機会といった要因に応じて達成していくものである。

「関係」のあふれた情報提供機能を

1984/10社会教育施設に『関係』のあふれた情報提供機能を
全日本社会教育連合会『社会教育』39巻10号、pp.73-77

<http://mito3.jp/seika/0210.pdf>

1「押しつけがましさ」の克服、2情報提供と「関係」、3人間的、生活的、全面的、今日的、「つながり」の情報、4地域情報・行政情報の提供、5カウンセリング・グループワークの位置づけ、6情報提供の個性化とシステム化、7情報の整理と提供がさらに認識を育てる、8社会教育施設が情報提供機能を発揮する役割。「押しつけがましさ」の克服と、人間的、生活的、全面的、今日的、そして「つながり」の情報提供の必要性を指摘した。

学習相談 十進法だけの世界からワンストップサービスへ

暮らしと仕事に関わる情報

前出懸賞論文より

「人間的」・・・人間が人間として求める、人間に関するナマの情報

「生活的」・・・人間が実際の生活から求める情報

「全面的」・・・人間が生きていく上での喜怒哀楽に関するあらゆる情報

「今日的」・・・過去の資料よりも、人間が今、つきあたっている課題に関する、今の情報

「つながり」・・・一人一人の人間を基礎にしつつも、情報の受け手が、それをもとに活動したり、他の人間とつながったりするための情報

カウンセリング

共感的理解 ロジャーズは、そのカウンセリング理論において、カウンセラーが患者に対して共感的理解をどこまでできるかを中心の一つにおいた。共感（シンパシー）とは、相手の言葉等を、その背後にある相手の準拠枠組と理解することである。それは「あたかも」相手と同じように感じることであって、自分の今までの枠組と「事実、同じだ」というときの同感とはまったく異なる。指導者は薬物依存の青年に対して、自分までいっしょに薬物を試みることによって彼に同感しようとする必要はないが、意識的な傾聴などによって共感的に理解しようと努力する必要がある。これによって、指導者自身の準拠枠組も相手とともに拡大、変化することになる。これが自己拡大であり、教育の根底的な目的でもある。すなわち、共感的理解のための意識的な努力によって、指導者も共に育つ（共育）のである。

『癒しの生涯学習』より <http://mito3.jp/seika/1470.txt>

エンカウンター

エンカウンター 遭遇。仮面や演技ではない出会いを意味する。そこには異なる枠組や価値観をもつ他者との出会いがある。自己疎外、人間疎外の現代社会においては、そういう出会いを意図的・意識的に創り出し、回復しようとする動きが見られる。これがエンカウンターグループである。そこでは、組織の奴隷としての時空間から離れた一時的な「文化的孤島」(1週間の合宿など)をメンバーの同意にもとづいて人工的に設定し、本音で出会うための構成的または非構成的なプログラムが提供される。しかし、自己決定の生涯学習、ボランティア、地域・市民活動においては、文化的孤島をことさら人工的に設定しなくても、メンバー同士のエンカウンターが期待できる。また、そういう自己決定のサンマの指導者には、毒にも薬にもならない仮面の社交辞令で無難にこなす技術よりも、共感的理解の努力のもとにエンカウンターする態度と意識が求められる。

前掲『癒しの生涯学習』より

ストローク

ストローク 交流分析の用語。「私はあなたの存在に気づいていますよ」と伝える行為。自分の時間を相手に与える愛の行為ともいえる。身体的(スキンシップ)、言語的(挨拶、励まし等)、非言語的(まなざし、うなずき、傾聴等)の3種、肯定的、否定的の2種、条件付、無条件の2種がある。ストロークなしでは生きていけないのは万人共通だが、その受け方、与え方にはそれぞれ特有の癖があるといわれる。また、「貧しいものはさらに貧しく、富めるものはますます富を増す」という言葉もあり、ストローク経済の法則と呼ばれる。ストロークは、上手な、あるいは悪い、ほめ方や叱り方にもつながるという意味からも、親や指導者にとって大切だが臨床的で難しい問題でもある。どんな種類のストロークがよいのかは一概にはいえないのである。「おまえなんかいなくなたっていいんだ」などの無条件否定のストロークについては論外だが.....。

前掲『癒しの生涯学習』より

職業能力の構造化・ラダーの必要性

千葉県・千葉市教員等育成指標から考える

千葉県・千葉市教員等育成指標

目標 信頼される質の高い教員の育成を目指して

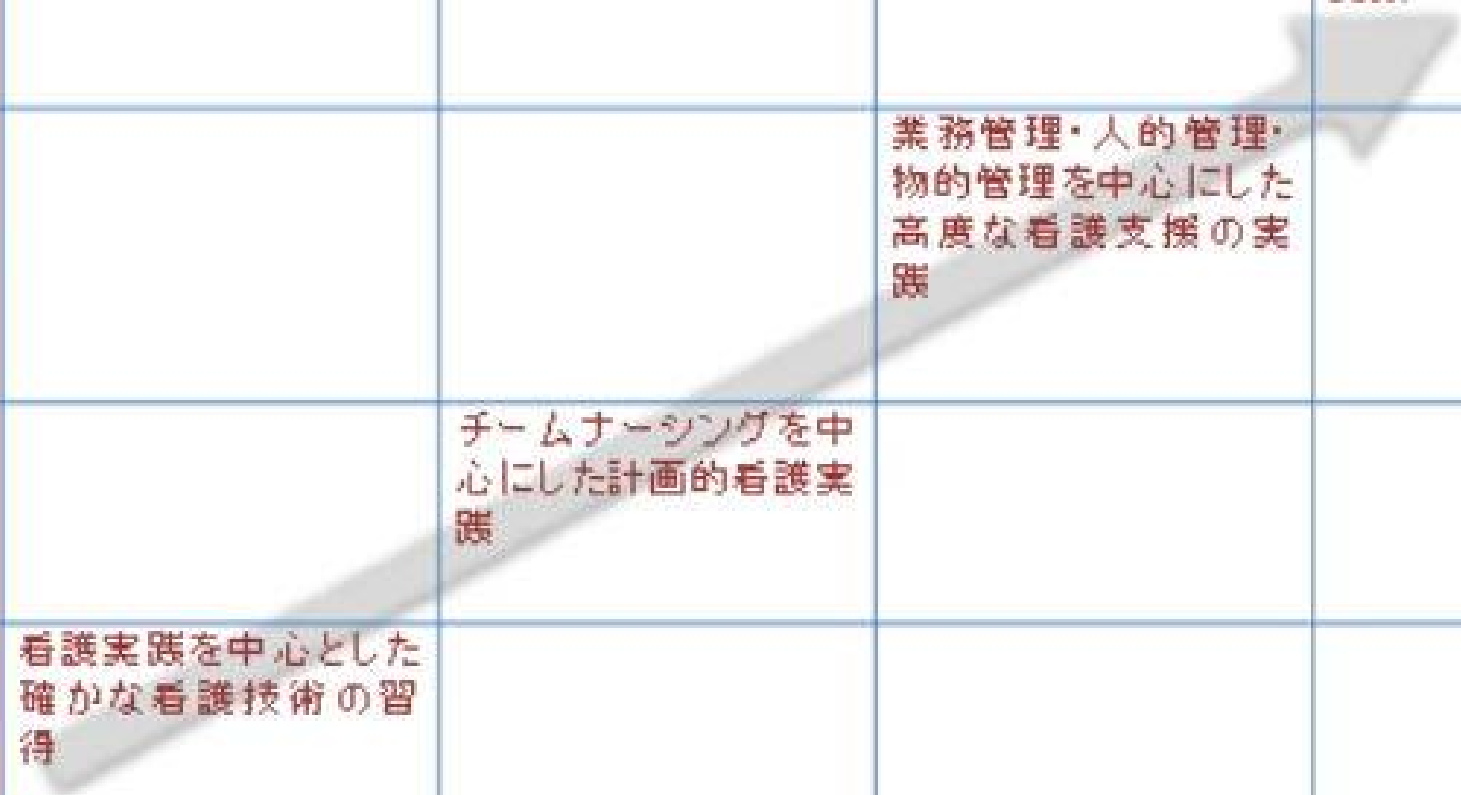
『千葉県の教育の振興に関する大綱』『千葉市の教育に関する大綱』及び
第2期千葉県教育振興基本計画「新 みんなで取り組む『教育立県ちば』プラン」より

四つの柱	構成要素	養成段階	千葉県・千葉市が求める教員像	ステージⅠ 【成長期】 (学級経営、担当教科指導等) 学級・教科担任等としての 自覚と資質能力の向上	ステージⅡ 【発展期】 (学年経営、校務分掌主任等の ミドルリーダー) ミドルリーダーとしての 自覚と資質能力の向上	ステージⅢ 【充実期】 (学校運営等、職員全体へ 指導・助言) チーム学校をリードする 自覚と資質能力の向上
教職に必要な素養	○使命感 ○責任感 ○教育的愛情 ○高い倫理観 ○服務規律の遵守	○教職の意義 ○教員の役割 ○教職への意欲 ○課せられる義務等	○人間性豊かで、 教育愛と使命感 に満ちた教員	教員としての職務に対する使命感、責任感、教育的愛情をもち、教職に対する強い情熱をもっている。また、教育公務員として高い倫理観をもち、服務規律を遵守し、公正に職務を遂行している。		
	○社会性 ○コミュニケーション能力	○教員としての広い視野や教養等を身に付けるとともに、学び続ける意欲やコミュニケーション能力を育む。		社会性、コミュニケーション能力等を備え、職務に応じて積極的に他の教職員と協働し、幼児児童生徒、保護者、地域等と関わっている。		
	○広い視野 ○学び続ける意欲 ○社会の変化への対応			広い視野をもち、教員としての資質能力の向上のため、研究と修養に努め、新たに必要とされる知識や技能を取り入れ、実践にあたっている。		
	○教職に関する教養	○教育の理念・歴史・思想や社会的・制度的・経営的事項等についての基礎的知識(選択) ○学習指導要領、幼稚園		教育に関し、社会的・制度的事項やその意義、歴史等について理解するとともに、最新の動向に関し情報収集に努めている。		

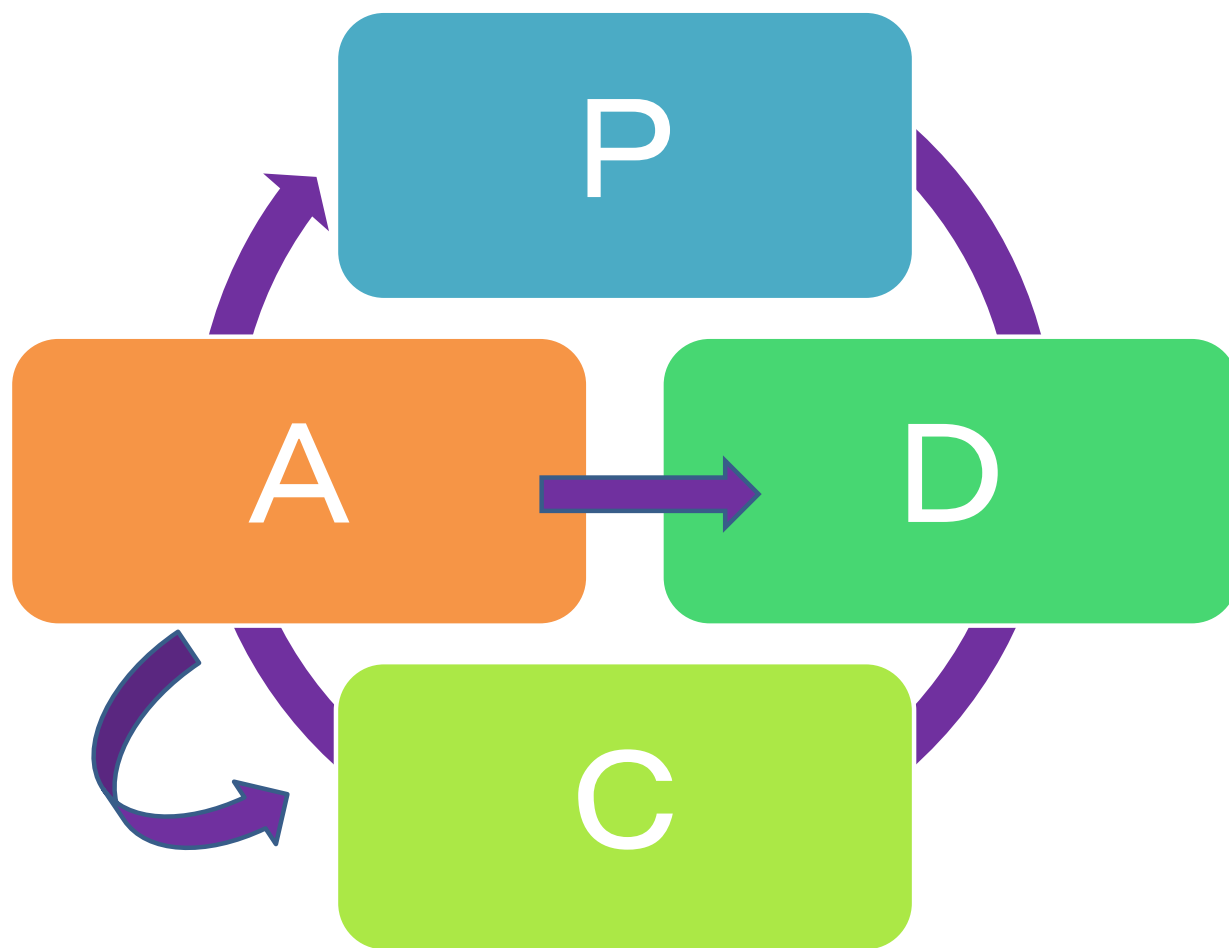
クリニカルラダーとの比較

技術技能教育研究所 <http://ginouken.com/KangoShougai.html>

ラダーⅣ				計画的な管理・後輩指導・看護研究の実践を中心とした統合的看護実践
ラダーⅢ			業務管理・人的管理・物的管理を中心とした高度な看護支援の実践	
ラダーⅡ		チームナースングを中心とした計画的看護実践		
ラダーⅠ	看護実践を中心とした確かな看護技術の習得			
経験年数	1～3年	4～8年	9～15年	16年～



PDCA=目標設定、達成方法設定、到達度評価、改善



資質・能力の構造化＝カリキュラム作成の技法 1

前掲自著「生涯学習と市民参加」より

資質・能力の構造化＝カリキュラム作成の技法

ここで、カリキュラム作成の技法としてクドバス(CUDBAS=CUrriculum Development Method Based on Ability Structure、1990年、森和夫)について紹介したい。発足当時は生産現場等で活用されていたが、最近になって急激に国際的な広がりや、看護師のクリニカルラダー(看護実践能力を段階的に表した「はしご」)などでの深まりを見せ始めている。クドバスのマニュアルは、最新版がホームページで公開されており、5人程度のチームでそのマニュアルを読み上げながら作業を進めれば、「クドバスチャート」を作成することができる。

クドバスでは、該当ラダーのトップクラス3人、上がったばかりの人1人、上のラダーの該当者1人を標準的メンバーとする。最初に職業人としての課題を設定して共有する。適切な課題設定のためには、指導者の問題提起や揺さぶりがあれば、より望ましい。この課題に基づいて、メンバー一人一人が、自己内対話によって、「分解した能力」を書き出す。この「能力カード」を重要順に構造化した「クドバスチャート」をチームで作成する。このチャートをもとに、分解された能力を各科目の到達目標に組み込んで、各回の「本時の目標」に配分する。そのほか、各科目の各回のテーマ、方法、内容を設定する。これらの科目を段階順に並べたものがカリキュラムである。

資質・能力の構造化＝カリキュラム作成の技法 2

2015年、中教審答申「チームとしての学校の在り方と今後の改善方策について」では、「チームとしての学校」像は、「校長のリーダーシップのもと、カリキュラム、日々の教育活動、学校の資源が一体的にマネジメントされ、教職員や学校内の多様な人材が、それぞれの専門性を生かして能力を発揮し、子供たちに必要な資質・能力を確実に身に付けさせることができる学校」とされた。そして、学校の組織文化も含めて見直し、人材育成や業務改善等の取組を進めるよう提言された。

組織に帰属する一員として、メンバーと協働するという「組織文化」が求められているのである。そのときの「人材育成」が目指す達成目標は、現場の職員の参画により、職場特有の課題に基づき、特定の状況や変化に応じて、臨床的、帰納法的に整理する必要がある。これが「チームとしての人材育成」のあるべき姿といえよう。クドバスでは、単純な作業（オペレーション）は扱わない。ルーティンワークではなくて、たえず相手にあわせて自分の能力を発揮する場合は、クドバスは大いに力を発揮する。そこには、臨床的、帰納法的という存在価値がある。

それぞれの職場に存在するこのような未知及び既知の「能力構造」は、一般には整理されていないのが実情である。しかし、「必要能力」は職場の者なら誰でもわかっていることだ。それなのに、これを構造化するなんて大変なことだと多くの人が思っている。だが、それは「やっていないから」というだけであって、クドバスを使ってチームでワークを行えば、誰でも必要能力をほぼ網羅でき、その「能力構造」を明らかにすることができる。どんなベテランでも一人では、いくつか必要能力を挙げるだけにとどまってしまう。このようないわば「未知への挑戦」は、職場のチームにしかできないことである。

クドバスを活用したプログラム作成例

2005/3/9 西村美東士「クドバスを活用した子育て学習の内容編成－高校生の子をもつ親のために」聖徳大学生涯学習研究所紀要『生涯学習研究』3号、pp.41-54

<http://mito3.jp/seika/2370.pdf>

「職業能力分析」の手法を援用することにより、高校生の子をもつ親に求められる能力を分解してとらえた上でこれを構造化し、各科目の到達目標及び全体の「仕上がり像」が明示化された学習内容を編成して、学習プログラムを作成した。その結果、学習スケジュール作成の段階にあっては、比較的容易に、テーマごとの学習目標を明確に設定することが可能であることが明らかになった。

表2 ② CUDBAS必要能力・資質リスト「高校生の子をもつ親」(列・行ともに重要度順)

仕事	能力-1	能力-2	能力-3	能力-4	能力-5
1 前向きな態度を示す	1-1A 人生に対して前向きな態度がとれる	1-2A 人権を尊重する態度がとれる	1-3A 自分が間違っていたら子に謝ることができる(BBS)	1-4B 親自身がうまくいかないとき、ヒステリックでない態度がとれる	1-5B 家族旅行をしたとき楽しい態度がとれる
2 子の変化を待つ	2-1A ほっとしておくことができる	2-2A 子のプライバシーを尊重する態度がとれる	2-3A 知っていても知らない態度がとれる	2-4A 子を信頼することができる	2-5B 子にとっては家がわが家という意識がとれる

スキルマップでは人材育成ができない

<http://ginouken.com/SkillMapDewa.html>

世間ではスキルマップを高く評価しているように見えます。作業者が何を担当できるかの見える化ができることは画期的でした。これまでに無かったものがあるということは相当のインパクトです。ISO認証と同時にスキルマップは人材管理のツールとして脚光を浴びました。しかし、管理のためのツールで、教育とは無縁のものと言って良いでしょう。

スキルマップは縦欄に作業の名称を列記します。例えば研削作業とか、仕上げ作業、測定作業などの言葉が入ります。横欄に作業者の名前を記載します。通常、年齢の高い方から列記します。表の中にはどの程度できるかについて5段階評価のスコアを記載します。工場の中の誰がどの作業をどの程度できるかを示したものです。人材育成の立場からこれを使おうとするとすぐに壁に突き当たります。これを見ても、何をどんな順序で教えるべきかが全く見えないのです。仕上げ作業と言ってもその範囲は膨大で、どこがその境界かを示してほしいものです。実態はわかったが何をどうすれば良いかが示されなければ意味がありません。

CUDBASによる能力マップはこれとは全く違います。人材育成から見ますと何を学習すれば良いかが明瞭に示されます。しかも能力は「知識」「技能」「態度」の3つの側面から記載されています。重要度の水準も明示しています。スキルマップが工場の作業の網羅であるに対して、能力マップは工場の作業者に必要な能力の網羅です。能力開発を目的とした能力マップはズバリ教育のための人材マップと言えます。実際に能力マップからカリキュラムを作成するプロセスをみれば一目瞭然です。

能力マップの得点の平均値の低い順に能力項目をソートしますと、対象者全体の弱みが明らかになります。また、平均値の高い順にソートすれば強みがどこにあるかがわかります。能力開発を弱みの克服ととらえますと教育実施の優先順位が一目でわかります。この他に課題解決に生かすことも可能です。例えば今抱えている課題の解決に必要な能力項目をピックアップして、低得点のものを集中して教育すれば、課題解決に大きく貢献することでしょう。

効果的なカリキュラム開発がいとも簡単に実現できてしまうところに良さがあります。今まで、スキルマップが教育に反映できない点はここに原因がありました。ですからこれからの時代は能力マップが常識になることでしょう。

*言葉を換えて言えば「管理のための管理」ではなく、「教育のための、そして個々人の発展のための能力マップ」に注目すべき時が到来したと言えます。

森 和夫 技術・技能教育研究所

社会教育指導者の育成

カン・コツ見える化のカン・コツ

キャリア教育のための暗黙知教材の開発（手引き書）

オンライン通信教育教材「キャリア教育シリーズ」外車販売のポイント

インタビューのポイント
× 見て盗め

若手社員の傾向 世代間ギャップ

若手社員育成の課題と方法

ー「組織の中で個性を発揮する人材」に育てるにはー

2014年9月西村美東士『日本生涯教育学会論集』35号、pp.71-80

<http://mito3.jp/syohyou/mitoron/3290.html>

意見対立を避ける若者たちの増加に対応した育成方法

青少年研科研費報告書 seisyoukaken.pdf

クドバス ©職業教育開発協会(VEDAC) プロファイリング学生作成事例

テーマ	図書館を居場所にするために必要な学校図書館司書の能力		
働いている場所 環境など	学校図書館（公立中学 高校）	職場のコンセプ ト	親しみやすい学校図書 館
職場での立場と 役割	学校図書館の運営	職場の課題	多忙な中、利用者層を 拡大する
その人物の主な 実務	選書・配架・貸出・読 書相談・イベント・学 校教諭との連携	その人物の基本 的考え方	誰もが親しめる図書館 にする
その人物の優れ ている仕事ぶり	図書館が居場所として 感じられるように、高 校生の気持ちに寄り添 いながら運営する	その人物の抱え ている課題	図書館利用者が限られ ていて、もっと親しみ やすい図書館にしましな ければいけない

クドバスチャート学生作成事例

仕事	能力													
1	1-1	A	1-2	A	1-3	A	1-4	A	1-5	B	1-6	B	1-7	B
図書室を整備する	清掃を行うことで汚れを無くし、資料が汚れにくい環境を整備することができる		利用者が資料を探しやすい配置がわかりやすい配架ができる		利用者からの批判的な意見を受け止め、直ちに対応・改善を行える体制を整えておくことができる		資料に関わる小さな問題は利用者が主体的に検索できるように、インターネット環境や蔵書検索機能を整備することができる		メールやチャットアプリからも利用者からの相談・問い合わせを受け付け、利用者ニーズを集めやすくなる		人目が気になる利用者にも配慮し、一人用の席や死角に隠れた席を配置することができる		利用者が主体的に図書館を綺麗に利用できるよう、職員が見守れる環境が整備できる	
2	2-1	A	2-2	A	2-3	A								
貸出を行う	どのような利用者にも利便性がよい資料貸出システム(簡単・迅速)を構築・提供することができる		蔵書リクエストや貸出・閲覧予約を行い、利用者が求める資料に触れられる環境を提供できる		資料の貸出期間の延長、返却方法の多様化(ポストの設置)など利用者の求めに応じた貸出サービスが提供できる									
3	3-1	A	3-2	A	3-3	A	3-4	A	3-5	A	3-6	A	3-7	A
相談に乗る	生徒と顔見知りになることができる		ヤングアダルトサービスの意義を理解し、それに基づいた相手の主体性を尊重した読書相談が行える		生徒の悩みや不安を具体的な課題として把握し、認識させることができる		認識させた課題を相談によって主体的に解決へと導くことができる		生徒の話をよく聞き、話の内容を繰り返して確認することで信頼関係を築くことができる		相手の話に共感を示し、相手を理解することで安心感を与えることができる		課題解決のために、課題によっては教員やカウンセラー等の助けを借りるよう助言することができる	
	3-8	B	3-9	B	3-10	B	3-11	B	3-12	B				
	相手の話に賛意を示したり肯定したりして、安心して話せる雰囲気をつくることができる。		生徒の悩みを共感的理解を示しながら聞き入れることができる		質問を通じて相手の話を傾聴し、問題解決の筋道を導き出すことができる		相槌や頷きによって相手への共感を表し、それを通じて相手からの信頼を築くことができる		生徒からの相談内容を担任や部活動の顧問などと共有し、早期解決に向けた支援ができる					
4	4-1	A	4-2	A	4-3	A	4-4	B						
選書する	CDやDVDなどのマルチメディア資料を設置・選書することができる		中高生の利用者ニーズを理解し、それに基づいた選書ができる		トレンドや利用者ニーズに対応した興味を沸かせる選書ができる		ヤングアダルトサービスとして中高生の読書を通じて主体性の成長を促す選書ができる							
5	5-1	A	5-2	A	5-3	A	5-4	B						
イベントを開催する	参加者が読書や配架資料、図書館に興味を持てるイベントを企画することができる		イベント中にトラブル(揉め事など)が発生しても対処できるよう、職員内で事前に対策を立てておくことができる		イベントを企画・開催し、図書館の新規利用者を増やしたり利用者の来館頻度を向上させたりすることができる		ビブリオバトルや図書紹介カード作りなど、利用者が主体的に関わるイベントを開催できる							

能力(教育目標)とはできる・知ってる・態度がとれる(技能・知識・態度)の3つである。

能力(教育目標)とはできる・知ってる・態度がとれる(技能・知識・態度)の3つである。